

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県

自治体名：千葉県

担当課名：千葉県教育庁教育振興部保健体育課

電話番号：043-223-4108

1.自治体の基本情報

基本情報

| | |
|------------------------|-----------------------|
| 面積 | 5,156 km ² |
| 人口 | 6,269,264人 |
| 公立中学校数 | 388校 |
| 公立中学校生徒数 | 155,991人 |
| 部活動数 | 3,289部活 |
| 都道府県の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定済 |

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

千葉県においては、千葉県人口ビジョン（令和2年）を元に教育庁保健体育課が推計した年少人口の推移によれば（下図左参照），およそ5年ごとに約5%ずつの年少人口減少が見込まれる。しかし，少子化による影響は，都市部と町村部では全く事情が異なり，一部の地域では10年間で中学生が3分の1程の人数まで減少してしまっている一方，ほぼ少子化を実感することがない地域もある。

他方，教職員の働き方においては，時間外在校等時間45時間を超える教諭等の割合及び平均時間外在校等時間の両方で，中学校・義務教育学校が突出して高い数値となっている（下図右参照）。

こうした中，一部地域で深刻化する少子化と，今後影響が生じる可能性がある地域等に対し，どのような支援が有効であるを明らかにする観点で次のことについて実証的に取り組むこととした。

- ①地域の実情に応じた多様な運営団体・実施主体の在り方についての検証
- ②異なる地域に対しての支援の在り方についての検証
- ③市町村同士の連携の在り方についての検証
- ④生徒の参加方法や費用等の在り方についての検証
- ⑤求められる関連制度等の方向性についての検証

千葉県における運動部活動の今後の予測

（令和4年10月 保健体育課）

2021年を起点として推計

| 年度 | 2021 | 2025 | 2030 |
|-------------------------------|--------|--------------|--------|
| 千葉県人口ビジョン（令和2年）より、年少人口の低下率を推計 | 100% | 94% | 89% |
| ※令和3年度学校基本調査より | 158265 | 148769 | 140856 |
| 小中体連データ | | | |
| 部員数（人） | 97695 | 91833 | 86949 |
| 部活動数 | 4714 | 変化がない想定で以下試算 | |
| ※男女はそれぞれカウント | | | |
| 平均部員数（人） | 20.7 | 19.5 | 18.4 |

基礎データ

5年間で約5%減
10年間で約10%減

※2035以後も同様、いずれ平均部員数は14名以下になる見込み

地域・種目によっては、チームが組めない。

人数的に練習すら成立しない状況も見込まれる。（3年生引退後は数名）

「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」令和2年1月17日告示

教育職員の時間外在校等時間 月45時間以内

※特別な事情がある場合は月100時間未満に限り可能。
一ただし、連続する複数月の平均時間外在校等時間80時間以内、かつ時間外在校等時間45時間超えの月は年間6カ月以内。

【令和4年度における千葉県の状況】 令和4年11月実施「教員等の出退勤時刻調査」より

月あたりの時間外在校等時間が45時間を超える教諭等の割合

| 小学校 | 中学校 | 義務教育学校 | 高等学校 | 特別支援学校 |
|-------|-------|--------|-------|--------|
| 47.0% | 58.9% | 56.3% | 29.3% | 10.1% |

月あたりの時間外在校等時間

| 小学校 | 中学校 | 義務教育学校 | 高等学校 | 特別支援学校 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 44時間05分 | 55時間39分 | 49時間14分 | 36時間43分 | 26時間19分 |

2.実証内容と成果

運営体制・役割

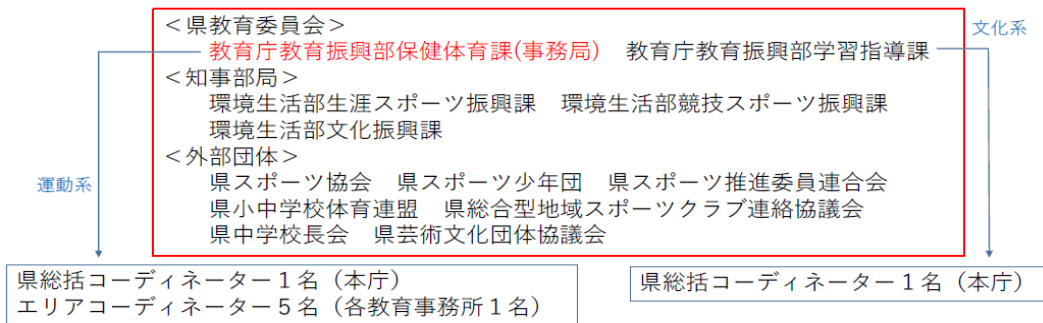
●運営体制図（都道府県における推進体制図）

令和6年度千葉県における推進組織

R 4 千葉県地域部活動検討委員会（年6回開催し、課題把握と進捗状況を分析・検討）

R 5 はより各所管の団体等に対する具体的な働きかけ等の実務に重きをおき、組織を再編

千葉県部活動地域移行実行委員会



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・必ずしも休日に部活動を実施する必要がない体制の推進
- ・必ずしも教師等が顧問を担う必要がない体制の推進
- ・関係団体との連携及び指導者の確保・質の向上
- ・市町村への指導・助言

◎首長部局

- ・地域のスポーツ・文化芸術活動の充実
- ・関係団体との連携 及び指導者の質の向上

年間の事業スケジュール

- 令和6年 4月 市町村新規担当者オンライン研修会
- 令和6年 5月 第1回部活動地域移行実行委員会
地域移行に向けた市町村担当者連絡協議会
- 令和6年 6月 第2回部活動地域移行実行委員会
- 令和6年 7月 県コーディネーター情報交換会
- 令和6年 8月 部活動地域移行実行委員会作業部会①
- 令和6年 9月 部活動地域移行実行委員会作業部会②
- 令和6年10月 第3回部活動地域移行実行委員会
- 令和6年11月 地域移行に向けた市町村担当者連絡協議会
- 令和6年12月 第4回部活動地域移行実行委員会
地域クラブ活動指導者講習会①
地域クラブ活動指導者講習会②
- 令和7年 1月 地域クラブ活動指導者講習会③
- 令和7年 2月 第5回部活動地域移行実行委員会

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

● 取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行うエリアコーディネーターを県内5教育事務所に各1名配置し、関係団体・市区町村との連絡調整・指導助言等を行う。

○エリアコーディネーターを統括するプレフコーディネーターを本庁に1名配置し、各地域の情報のとりまとめ・分析や各エリア同士の連携調整を行う。

○趣旨に応じて多様な形での情報提供・協議の場を整備し、効果的な指導助言体制を確立する。

取組の成果

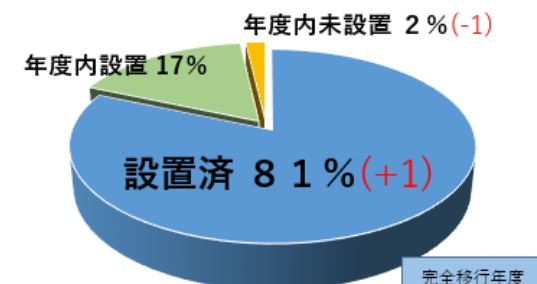
○エリアとプレフの2種類の総括コーディネーターを配置することで、各市町村へ効果的に指導助言を行う体制が実現するとともに、市町村同士の連携にもつながった。

○参集型の連絡協議会では、全体の情報共有や事例紹介だけでなく、教育事務所単位の市町村同士の協議会を設定し、オンラインでは市町村別の意見交換会や新規担当者向けの説明会等の目的に応じきめ細やかな対応を行うことで、市町村における年度内協議会設置率98%、年度内推進計画の設置率63%と、具体的な体制整備が進んできている。

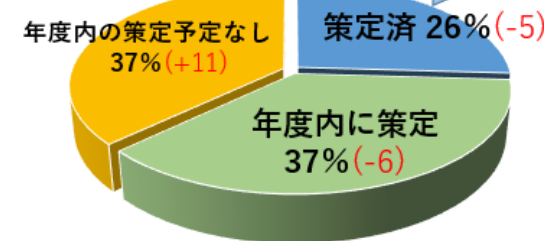
地域クラブ活動の設置予定（政令市を除く）

| | すでに活動中 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 運動系 | 199 (24市町村) | 250 (29市町村) | 362 (35市町村) | 675 (37市町村) |
| 文化系 | 3 (3市町村) | 26 (5市町村) | 40 (11市町村) | 91 (18市町村) |

協議会の設置状況



推進計画の策定状況



コーディネーターの具体的な動きの実績

【エリアコーディネーター】

- ・市町村協議会等の設置・運営・助言に関する業務（必要に応じて市町村内協議会へ出席）
- ・人材確保のための相談（域内の団体等の情報提供・連絡調整の補佐）
- ・情報提供（国・県・他市町村との情報共有及び情報提供）

今後の課題と対応方針

- ・コーディネーターの配置人数が増え、また各コーディネーターに対する市町村からの期待も高まっていく中で、より組織的な動きが求められる。コーディネーターの打合せや連絡の機会を密に行う上でプレフコーディネーターの業務をより整理するとともに、データ共有環境を整備する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○令和5年12月に設置した人材バンク「ちばクラサポ」の運営と、新規登録者向けのプロモーション活動を展開し、各市町村における共通の課題である指導者の確保に対応する。
 ○人材バンクの機能を通じて、指導者の量の確保と質の保障に関する適切な施策のバランスを検証する。

人材バンクの人数

1,182名 (R7.2.28)

人材バンクの年齢構成

| | |
|-------|------|
| 10代 | 67名 |
| 20代 | 221名 |
| 30代 | 173名 |
| 40代 | 229名 |
| 50代 | 214名 |
| 60代以上 | 248名 |

種目

- ・陸上競技 ・体操
- ・ソフトボール ・野球
- ・ソフトテニス ・硬式テニス
- ・バスケットボール
- ・サッカー ・バレーボール
- ・バドミントン ・ダンス
- ・剣道 ・柔道 等

資格有無

教員免許 223名
 教員免許以外の指導者資格 577名

ちばクラサポ(千葉県地域クラブ活動等指導者人材バンク)とは？
 「ちばクラサポ(千葉県地域クラブ活動等指導者人材バンク)」は、今後、市町村等の地域が主体となって取り組む各都道府県クラブ活動に対し、指導者として協力いただける地域の登録いただき、市町村の依頼に応じて、指導者を紹介するしくみです。県教育委員会では、子どもたちがスポーツ活動に継続して楽しむことができる機会を創出し、他活動の地域移行に取り組んでいます。移行に向けて協議となる地域での指導者確保のため、県教育委員会では新たに「地域クラブ活動人材バンク」を設けることとなりました。

【地域クラブ活動人材バンク ご利用の流れ】



取組の成果と課題

○地域クラブ指導希望者や大学生等へのプロモーション活動、ホームページ等による広報により、登録者は緩やかに増えていっている。

○市町村からの報告によれば、登録人数の1割程度の割合でマッチングが成立している(今後、詳細調査予定)。

●千葉県では、希望する誰もが登録できることとしているため、指導者の質を担保する方法として新たな取組を検討している(右図参照)。

●登録者数の増加率が停滞しつつあるので、再度公認有資格者等に対する直接的なアプローチが必要と考える(R5に県内約6,000人に対してダイレクトメッセージで案内を送付している)。



令和7年度から「eラーニングプログラム」の追加予定

採用候補を検討する際の
妥当性をサポート!

機能1

クラサポ内に設置し、指導者が任意で受講可能とする。
 →受講状況がプロフィール上で確認できるよう仕様変更。

域内指導者の研修を技術・財政面でサポート!

機能2

県HPからのリンクにより、各市町村単位でも利用可能とする。
 →研修システム等の構築に苦慮する自治体向け。

eラーニングプログラム利用の留意点

- 受講後は県の受講証明を発行する予定ですが、指導者の質を県が保証するものではありません。
- 内容はあくまで基本的・汎用的な事項を取扱います。必要に応じて、別途「地域クラブ指導者講習会」を御利用ください。
- 可能であれば、市町村単位で研修システム等を構築してください。
- 例えば、本プログラムを参考とし、市町村ver.にカスタマイズする等の工夫も考えられます。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



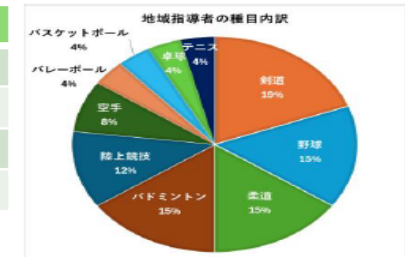
取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

令和6年度地域クラブ指導者講習会実績【総括】

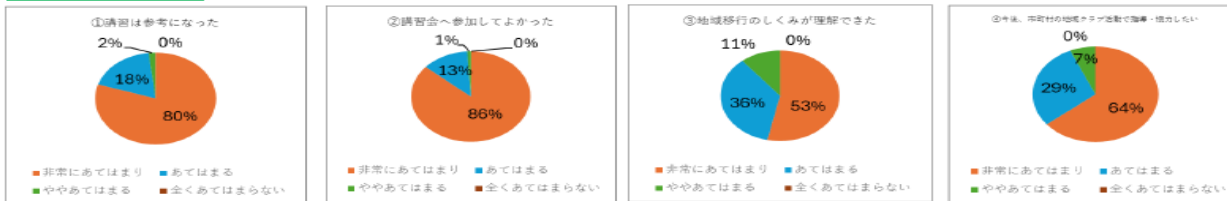
主催：千葉県部活動地域移行実行委員会
 (事務局：千葉県教育庁保健体育課)

| 1. 参加者数 | 期日 | 講師 | 会場 | 参加者数 | 地域の指導者 | 指導者を目指している |
|----------------|-------|------------------------|-----|------|--------|------------|
| のべ 113名 | 12/15 | 浦安D-Rocks | 浦安市 | 20名 | 6名 | 14名 |
| | 12/21 | (株)biima・ビューティフルマナー(株) | 君津市 | 26名 | 11名 | 15名 |
| | 1/18 | (株)biima・ビューティフルマナー(株) | 成田市 | 21名 | 7名 | 14名 |
| | 2/2 | (株)千葉ロッテマリーンズ | 千葉市 | 46名 | 6名 | 40名 |



2. 満足度

全4会場 (回答数110)



3. 開催希望講習

- 安全指導 (けが予防・救急措置・熱中症予防等)
- 選手のメンタルケア・メンタルトレーニング
- 実際のクラブ活動事例
- コーチングスキル
- 個人競技の指導法
- 技術専門講習 (バスケットボール・バレーボール等)
- チームマネジメント
- 文化系の活動
- biimaの活動 (練習) 見学

4. 成果と課題

◎成果

- ◎理論と実践、総論と具体論などの組み合わせは、非常に満足度が高かった。
- ◎どのスポーツにも共通する「汎用的な内容」というコンセプトは、多くの競技関係者の参加を促すことができた。
- ◎地域クラブ活動の指導者を目指している方の参加割合が7割以上であったことから、指導希望者の発掘に効果的であった。
- ◎参加者の声から、困っていることや知りたいことのニーズを情報収集することができた。

▲課題

- ▲地域クラブ活動の指導者の参加割合が少ないのは、指導のスケジュールが既に決まっており、試合などが重なっていたことが考えられる。年度早期の告知が必要。
- ▲地域移行の仕組みの理解には、更なる説明が必要である。参加者の声から、実際に運用しているクラブの見学も効果的と考えられる。
- ▲千葉アルティエリとの連携は、会場確保の関係で実現できなかった。
- ▲開催時期が12月から2月に集中し、事務局の準備が同時並行となり繁忙になった。

5. 次年度の方角性「継続と開拓」 早期調整・企画 (令和6年度内)

(1) 継続

- 好評だった講習会については、引き続き継続する。
- ・参集型講習会は、内容や組み合わせに変化を加える。
 - ・巡回型講習会は、開催エリアを変えて開催する。
- その際、「ちばクラサポ」登録者の地域分布や地域クラブ活動数、会場アクセスなどを考慮し、総合的に検討する。
- (R6) 北総・南房総 → (R7) 東葛・葛南など

(2) 開拓

- 参加者のニーズをふまえた新たな講習の新規開拓をする。
- ・安全にかかわる指導はニーズが非常に高く、喫緊の課題である。熱中症予防を考えると、5月開催が望ましい。
 - ・企業・大学を講師の候補として検討する。
 - ・R7年度より始動するeラーニングの内容との兼ね合いも考慮した上で、対面型ならでの良さを生かした講習 (見学や交流) を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○千葉県部活動地域移行実行委員会の運営について、いわゆる「協議会」としての位置づけだけでなく、県の事業を執行するための「実務」を行う機関として整備を行った。特に、実行委員会役員所属宛での周知や依頼を意図的に発出することで、伝達経路の整備、組織間の横の連携及び各組織の市町村階層との連携強化等に趣旨を置いた。

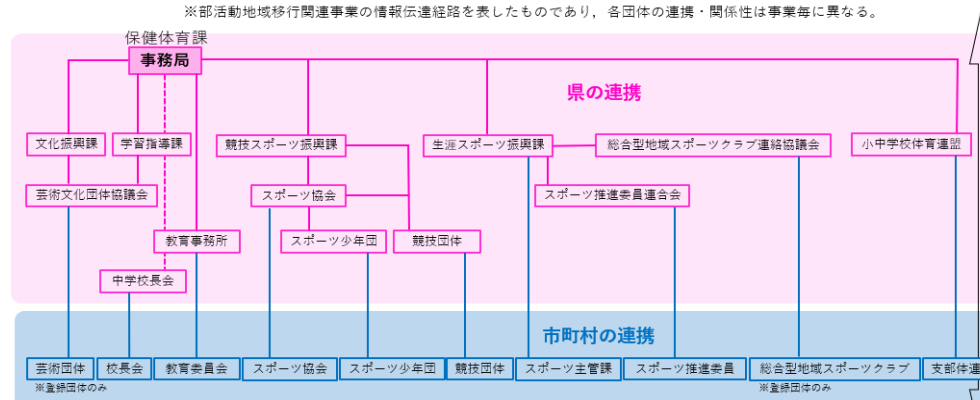
○目的に応じて、ワーキンググループを設けて部分協議等を行うことで、効率的かつ効果的な推進体制の構築を図る。

取組の成果

目的を共有する共同体として、各組織の所管事業で地域移行実行委員会との連携が実現した。また、市町村階層での情報を吸い上げる連絡経路の強化を図ることができた。

部活動地域移行のためのネットワーク構築に向けて(イメージ図)

※部活動地域移行関連事業の情報伝達経路を表したものであり、各団体の連携・関係性は事業毎に異なる。



千葉県における地域クラブ活動推進体制（R6時点）

| 学校（部活動）に関する整備 | | 地域スポーツ・文化芸術活動に関する整備 | | |
|--|---|---|--|--|
| 教育庁（教育振興部） | | 環境生活部（スポーツ・文化局） | | |
| ・必ずしも休日に部活動を実施する必要がない体制の推進 ・必ずしも教師等が顧問を担う必要がない体制の推進 | | ・地域のスポーツ・文化芸術活動の充実 | | |
| 保健体育課（運動部） ・運動部活動の指導、助言 ・小中学校体育連盟との連携 ・拠点校、合同部活動 ・部活動指導員（運動部） ・実証事業（運動部） | 学習指導課（文化部） ・文化部活動の指導、助言 ・文化部関係団体との連携 ・部活動指導員（文化部） ・実証事業（文化部） ・入試制度の検討 （スポーツ・文化芸術活動の取組） | 競技スポーツ振興課 ・スポーツ協会と連携 ・競技団体への指導、助言 （※千葉県スポーツ協会、千葉県サッカー協会、千葉県ラグビーフットボール協会、千葉県バスケットボール協会、千葉県バレーボール協会、千葉県卓球協会、千葉県柔道連盟、千葉県剣道連盟、千葉県空手道連盟、千葉県柔道連盟、千葉県柔道連盟） | 生涯スポーツ振興課 ・総合型地域スポーツクラブ関係事業（設立、連絡協議会） ・市町村への指導、助言 | 文化振興課 ・県芸術文化団体協議会との連携 ・市町村への指導、助言 |
| 事務局 ・教師等の処遇に関する整備（教員特殊業務手当、兼職兼業制度、在職等時間） ・地域クラブ指導者確保の取組（人材バンクの設置）※1 ・地域クラブ指導者の質の向上（指導者講習の実施）※2 ・市町村への指導、助言（進捗管理、関係予算の措置、連絡協議会の開催、エリアコーディネーターの配置） ・連絡調整（各課との連絡調整、関係団体との連携、情報共有、千葉県部活動地域移行実行委員会の運営）※1 ※1 県内の進捗状況に応じて所管の見直し検討 ※2 令和8年度より教育庁ではeラーニングとして実施 | | | | |

<R6に実施した実行委員会と連携した事業>

- ・千葉県地域クラブ指導者講習会（全4回）
- ・第1回千葉県体育学会大会シンポジウム
- ・スポーツ少年団指導者研修会
- ・令和6年度第3回千葉県スポーツ指導者研修会
- ・令和6年度千葉県総合型地域スポーツクラブ情報交換会
- ・令和6年度千葉県スポーツ少年団本部長・副本部長会議

今後の課題と対応方針

更なる連携のためには、より具体的な施策を策定し、目的の明確化を行う必要がある。また、実行委員内容を構成委員の所属組織内での共有方法について、認識の相違がないよう、共有方法を工夫していくことが課題となっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

令和6年9月時点におけるアンケートでは、県内54市町村のうち25市町村で市町村を越えての広域連携について、「希望する」「検討中」となっている。特に町村部においては、域内の中学校数が少なく、少子化の影響が深刻な地域も少なくない。こうした地域においては、各種目毎の部活動や地域クラブの生徒数が十分でないだけでなく、指導や運営を担う地域人材も枯渇する等、慢性的な人材不足の課題がある。

一方、新たなスポーツ活動の創出に向けた組織間の合意形成は簡単ではなく、域内の調整に注力せざるを得ない自治体は多く、自治体同士の合意形成の必要は実感しているが、そこまでは至らない現状が多い。

そこで、各自治体同士の情報提供や理解につながる調査・資料作成、各自治体が協議する場所の提供、関連する日程調整等の業務を県が配置するエリアコーディネーターが担い、各自治体同士の効果的な連携体制の構築を補佐した。

(ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備も参照)

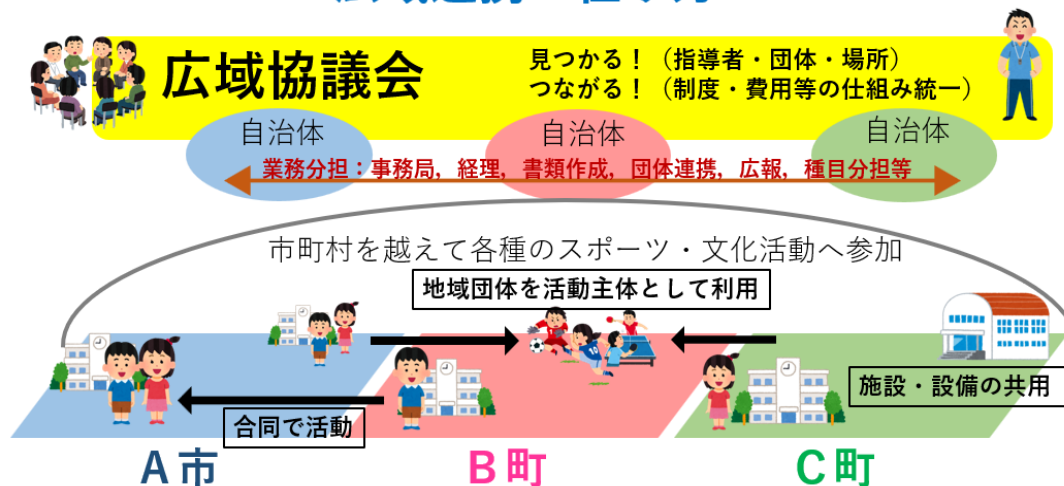
取組の成果

全県として主催する参集型連絡協議会により少なくとも年間2回は教育事務所単位で各市町村が協議する場を設定しているだけでなく、エリアコーディネーターの働きかけにより定期的な広域連絡協議会を開催しており、地域によっては、4自治体合同の部活動ガイドラインの設置や市町村を越えて参加可能な地域スポーツクラブ活動の発足が実現している（各市町村成果報告書参照）。

今後の課題と対応方針

広域連携が単なる情報共有に留まらず、真に課題解決に繋がる取組となるよう、県の具体的な関わりをより推進していく。

広域連携の在り方



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

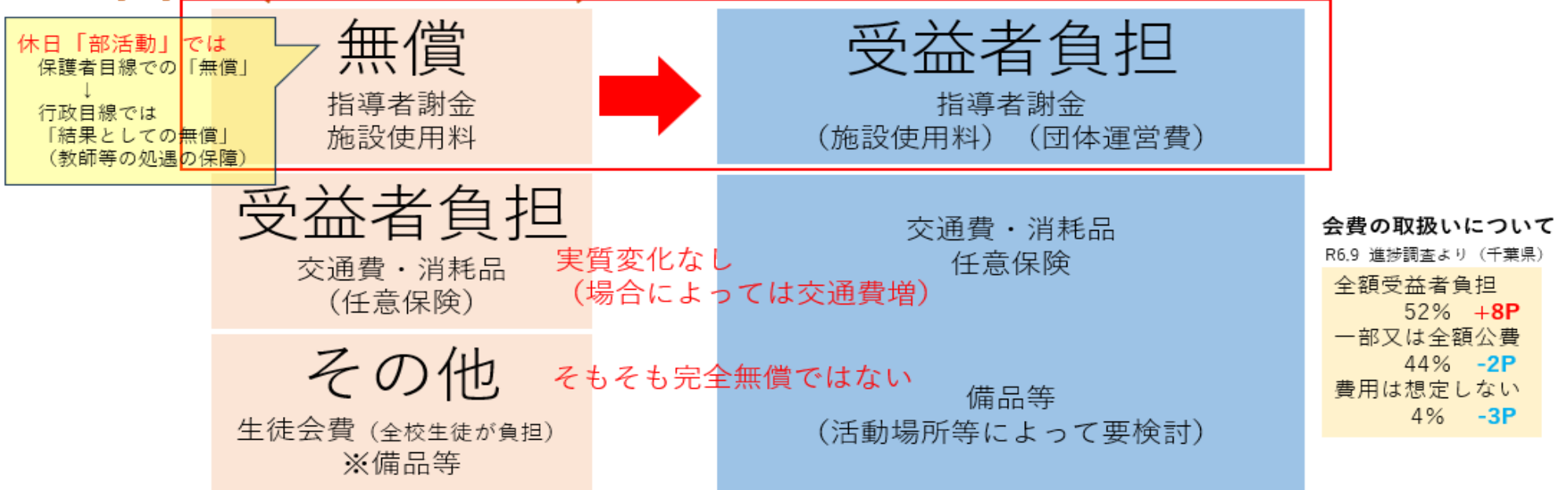
人材確保や指導者の質の向上等，各市町村が一律に抱える課題に対しては，県として積極的な課題解決策を講じていくとともに，アンケート調査の実施を通じて，地域に合った方向性を探り，適切な参加費用の在り方について，今後明らかとしていく。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

1部活動あたりの地域移行経費 650千円
 指導者謝金
 (校内指導) ¥1,600×3h/週×48週 = 231千円
 (大会引率) ¥4,000×20日/年 = 80千円
 事務局員謝金 ¥1,600×3h/週×48週 = 231千円
 その他(団体活動費,保険,事務局運営等)110千円

平日 (学校部活動)

休日 (地域クラブ活動)



保護者が考える 妥当額 平均 1,279円/月

平均 3,659円/月 (民間企業の回答 9,500円/月)

※数値は、経済産業省F S事業「未来のフカツ」ビジョン (2022年9月) 報告書 城南進学研究者調査より

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和4年度から発足し、現在に至る「千葉県部活動地域移行実行委員会」（いわゆる協議会）において、諮問機関ではなく、新たなスポーツ・文化芸術活動を創出するために目的を共有する集合体として位置づけ、事業推進にあたっている。

本事業は、生涯スポーツという意味では大きなゴールを共有するものの、その実施方法について必ずしも同じ答えを持たない。

こうした中で、県の役割としては、次のとおりに整理をし、事業を実践した。

①域内で一律に抱える課題に対する具体的取組。

- ・指導者の確保（人材バンク「ちばクラサポ」）
- ・地域クラブ指導者講習会
- ・広域連携のサポート

②各市町村への情報提供、指導・助言。

- ・様々な形態の連絡会・意見交換会。
- ・エリアコーディネーターによる継続的な関わり。

③丁寧な情報発信

- ・千葉県部活動地域移行実行委員会の連携事業。
- ・ホームページによる情報発信等。

●成果の評価

千葉県において、現状の推進体制となってから3年目（実証事業としては2年目）が終了しようとしており、県内関係機関の連携も進んできた。

令和6年度は、多方面で部活動の地域移行に関する情報共有の施策が展開され、県内各市町村でも推進計画の策定が具現化されつつある。

また、県が行う取組の一つ一つが、単発実施ではなく、年度内にも何度も改良が加えられ、ニーズや状況に応じてアップデートしていることに、関係の団体及び自治体より一定の支持を得ている。

一方、県立中学校（2校）の地域クラブ実施について、併設型一貫校として高校生と合同部活動を実施しており、関係職員の身分も混在していること等、県立中学校特有の諸問題に直面し、取組が進んでいないことは大きな課題として残る。

●今後に向けて

引き続き県民、生徒、市町村の声を聴きながら丁寧に事業を推進していく。指導者の確保及び質の保障については、多くの指導者または市町村が利用しやすい形としてe-ラーニングを導入し、「ちばクラサポ」利用者が任意で受講できるようにする（受講証や資格等をシステム内プロフィールにPDFやJPEGで貼る機能はR6実装済）とともに、希望する市町村が域内指導者に対して受講させることができるようにする。

さらに、本県では令和7年度を県内市町村において推進計画策定年度としていることから、県内各市町村へ、より手厚い指導・助言を展開するとともに、令和8年度以降の具体的な県の方針策定を年度内に行うことができるようにする。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・広報資料

令和6年度千葉県部活動の地域移行に向けた環境整備事業 地域クラブ活動指導者講習会
トップ・プロチームによるチームづくり講座
 対象：「中学校部活動の地域移行に伴う地域クラブ」の指導者及び指導者を目指す方

受講者募集（無料）

URAYASU B-Rocks Presents
**トッププロ指導者が、全ての競技の指導者におくる！
 生徒の潜在能力を引き出すコーチングと環境づくり**

【本講座のスペシャルな3つの魅力】
 ①どの競技にも通じる汎用的な指導スキルを学ぶことができる！
 ②生徒自ら考え、判断できるようにどのように指導をしているのか、実際の指導場面を見て、直接話を聞いて学ぶ、体感型講習！
 ③チームづくりのプロセスを**プロコーチ**が徹底解説！

開催日時
12/15(日)
 10:00～15:30
 (受付9:30～)

大歓迎

- ✓ 令和の指導スタイルに転換したい方
- ✓ トップレベルの指導に学びたい方
- ✓ 生徒自ら考えるチームづくりを目指したい方

トップリーグコーチ経験者によるジュニアチームへの指導の參觀
 トップコーチが大切にしているチームづくりのポイント
 (ヘッドコーチ)プレイ・レイアウト スコッドランド代表キャプテン
 生徒が競技を好きになる！
 将来につながる指導

主催 千葉県教育委員会
 講師 URAYASU D-Rocks コーチ (ジャパンラグビーリーグワン ティビジョン1)
 会場 浦安Dパーク (浦安市高洲8丁目2-1) ※なるべく公共交通機関をご利用ください。
 参加費 無料
 持ち物 筆記用具・昼食
 ☎043-223-4108 (保健体育課)
 ✉gakutai@mz.pref.chiba.jp

お申込み方法
 右の二次元バーコードからお申込みください。
 登録されたメールアドレスに、講習会の連絡をお送りいたします。

先着50名

【地域クラブ指導者研修会チラシ】

参集型 (浦安Dパーク)

令和6年度 部活動の地域移行に向けた環境整備事業 地域クラブ活動指導者講習会 | N君津
 主催 千葉県教育委員会

～生徒に自信をつける～
全ての地域クラブ活動指導者のための指導力UP
参加費無料 セミナー

こんなお悩みにアプローチ!

- ✓ 生徒の意欲を伸ばす言葉かけができるようになりたい
- ✓ 生徒の非認知能力を伸ばしたい
- ✓ 今の時代に合った高い指導スキルを身に付けたい

生徒の自己肯定感を高める言葉かけ、コミュニケーション力や課題解決能力を向上させる指導スキルがわかる！

セミナー内容

- 1 生徒の非認知能力を育成する課題解決型指導のポイント
- 2 生徒のやる気を引き出す言葉かけのスキル「ベッツーク」

開催場所
 君津市上総公民館
 君津市久留島市場1-9-2-5

日時
12/21(土) 10:00・15:30

定員
 先着30名 締切:12/15(日)まで (定員決まり次第終了)

【問い合わせ先】
 千葉県教育庁保健体育課学校体育班
 ☎043-223-4108
 ✉gakutai@mz.pref.chiba.jp

講師のご紹介
ビューティフルマナー株式会社 岸田 舞美
 ビューティフルマナー株式会社 代表取締役
 2000人以上マナー教育サポーター協会 理事
 研修講師として講演会、セミナー回数2000回以上。
 子どもや高齢者の心を育む活動が得意なベッツークセミナーに、教育現場のスポーツ指導者も活用中。

株式会社biima 土井 義大
 株式会社biima 代表取締役
 最新のスポーツ科学と実用教育を融合した21世紀型総合キッズスポーツスクール「biima sports」を全国で400校展開。指導者育成にも力を入れ、自治体の指導者だけでなく、大学・専門学校でのセミナー、小中学生・高校生・社会人など幅広い指導者対象、スポーツ庁主催「第1回 Sport in Life Award2021」全国総務庁で優秀賞受賞など、所属校への充実した指導者育成。

ご予約はこちらから

巡回型 (君津市)

部活経験者のあなたの出番です。

中学校・高校の部活動をサポート
千葉県地域クラブ活動等人材バンク(ちばクラサポ)

千葉県では、部活動や地域クラブをサポートする人材を募集し、あなたの経験や知識を、子どもたちの未来に活かしませんか。

指導者登録は**3分でOK!**

資格や教員免許がなくてもOK。指導経験は問いません。

<https://chiba-partner.sportsbank.jp/>

登録すれば、こんないいこと、いい未来!

- ✓ 空欄に有効なガクチカに
- ✓ 地域貢献やボランティアを通じて、人脈やコミュニティが広がる
- ✓ 休日の副業・アルバイトで報酬が得られる

申し込みボタンを押してください。
 後日事務局よりメールが届きます。

【人材バンク「ちばクラサポ」】

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



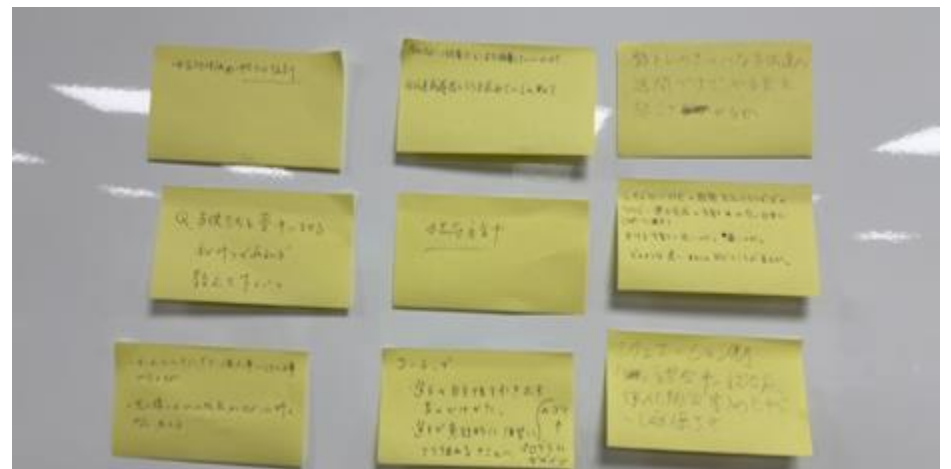
【地域クラブ指導者講習会（参集型）】



【地域クラブ指導者講習会（参集型）】



【地域クラブ指導者講習会（巡回型）】



【地域クラブ指導者講習会（協議の様子）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

教職員・生徒・保護者を対象としたアンケートの結果、教職員においては、休日の部活動指導を望む教職員は28%に留まり、地域クラブ化には81%が賛成とした。生徒の60%は、一定の条件下で地域クラブ化へ肯定的であり、保護者においては、67%が地域クラブ化を賛成とした。

改めて、学校方針として、部活動の方向性と休日の在り方について共通理解を図り、部活動顧問会のチーフ（輪番制）と打合せを行う。職員会議で県の施策を説明する等、教職員に対しても今後の方向性について丁寧に説明し、5月中を目標に校内推進組織を設置する。

必ずしも2校ともに同じ形態であることに固執することなく、各校の特色に合った方法で、準備が整い次第地域クラブ活動を開始する。

令和5年

関係者へのヒアリング
(アンケート実施)

令和6年

課題の見直し及び今後の推進
計画に向けた検討

令和7年

校内推進組織の設置

対象部活動の選定
生徒、保護者への説明

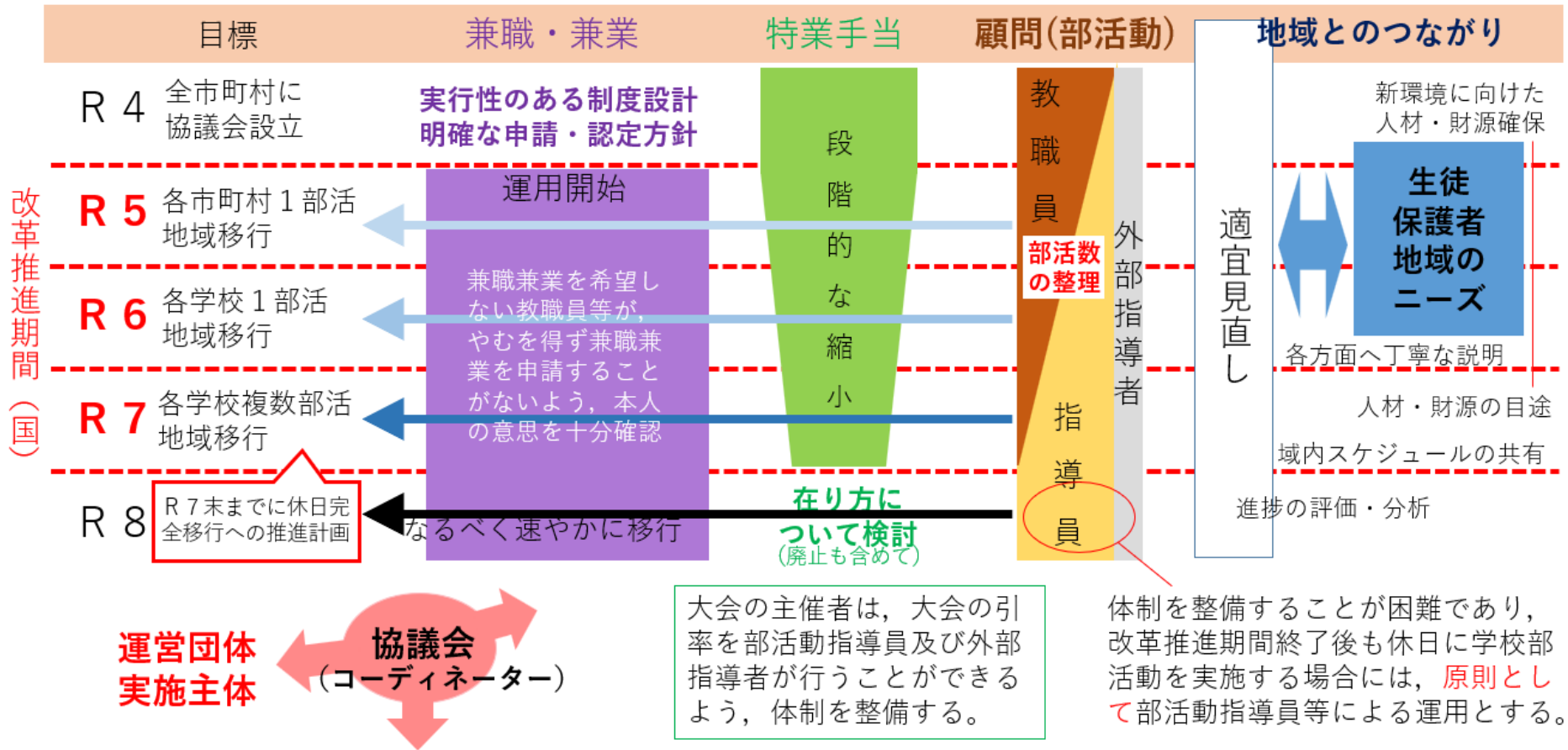
地域クラブ活動実施

地域クラブを設置するにあたり、対象部活動や活動の枠組みを策定するための校内委員会を設置を図ったが、不調となり、具体的な計画推進に至らなかった。
理由として、併設型中高一貫校として、高校生と合同の部活動を実施していることや顧問も高等学校職員・中学校職員の切り分けという概念がないことが2校共通の課題である他、各校の教育方針の中での「部活動」の位置づけに再整理が必要という学校の要望が挙げられる。

すでに、外部指導者を活用している部活動等を中心に2校で6部活動を目標に、地域クラブ活動の対象部活動を選定する。
保護者会にて、県の方向性を含めて説明を行う。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動の地域移行に関する課題の整理とスケジュール



各地域の実情に応じた危機管理体制 (相談窓口・連絡連携ネットワーク・施設管理・業務管理)

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県 市川市

自治体名：千葉県市川市

担当課名：保健体育課

電話番号：047-704-8078

1.自治体の基本情報

基本情報

| | |
|------------------------|-----------------------|
| 面積 | 57.45 km ² |
| 人口 | 496,000 人 |
| 公立中学校数 | 16 校 (義務教育学校1校含む) |
| 公立中学校生徒数 | 9,316 人 |
| 部活動数 | 218 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定に向けて準備中 |

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市においては、15校の公立中学校及び1校の義務教育学校があり、生徒数9,316名で運動部169部活、文化部49部活の計218部活が活動している。

部活動における大きな課題として①「少子化」②「多様なニーズへの対応」③「働き方改革」の3つが挙げられる。

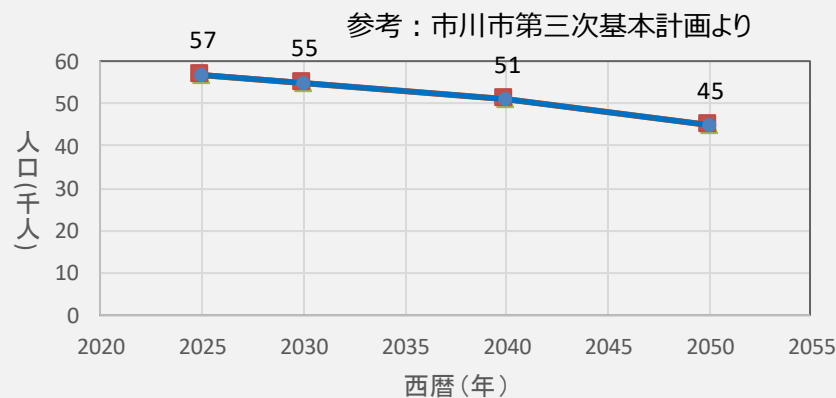
①少子化については、本市の生徒数は、ゆるやかな減少傾向にあり、特に2040年以降から生徒数の減少が顕著になってくる。

②多様なニーズへの対応については、市内全校に設置された競技種目は、野球、サッカー、女子バスケットボールの3部活のみであり、文化部においては全校設置のものはない。

③働き方改革については、顧問となるを持つことに負担を感じている教職員は多くいる。

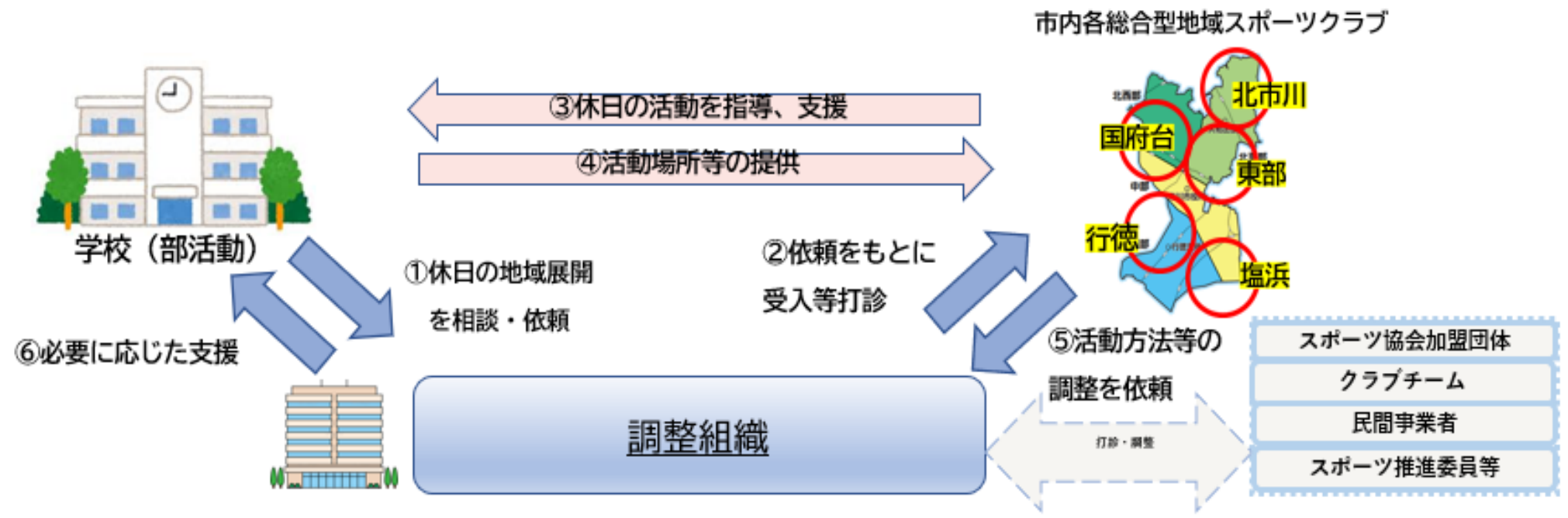
以上の結果より、本市においても地域移行を進めていく必要性がある。

市川市人口推計（0～14歳）



市川市においては、多様なニーズ、働き方改革に対応した持続可能な体制作りが必要

市川市が目指す部活動地域移行イメージ



| 令和7年度以降のスケジュール（案） | | | | 学校教育部保健体育課 | |
|-------------------|----------------|-------|------------------|-------------|--------------|
| | 令和7年度 | | 令和8年度 | 令和9年度 | |
| | 4月 | 4月～8月 | 9月～ 35クラブ運用 | 9月～ 70クラブ運用 | 9月～ 105クラブ運用 |
| 市の方針 | 調整組織 基盤構築期間 | | 調整組織試行期間 委託準備 | 調整組織委託検討 | |

市川市が目指す部活動地域移行イメージ

令和6年度 市内の運動部活動（市内16校）

| | | | | | |
|---------|----------|----------|-----|---------|-----|
| 野球部 | 16校 | サッカー部 | 16校 | ソフトボール部 | 5校 |
| 剣道部 | 13校 | 陸上競技部 | 10校 | 卓球部（男女） | 10校 |
| バドミントン部 | 9校 | 柔道部 | 5校 | ハンドボール部 | 1校 |
| バスケ部 | （男子 14校） | （女子 16校） | | | |
| テニス部 | （男子 10校） | （女子 12校） | | | |
| バレー部 | （男子 7校） | （女子 15校） | | | |



令和6年度について、市内全校に設置された種目は限られており、入りたい種目ができずにいる生徒も一定数いる。

地域移行を進めるにあたって、本市には総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会、民間企業、芸術文化協会など様々なものがある。

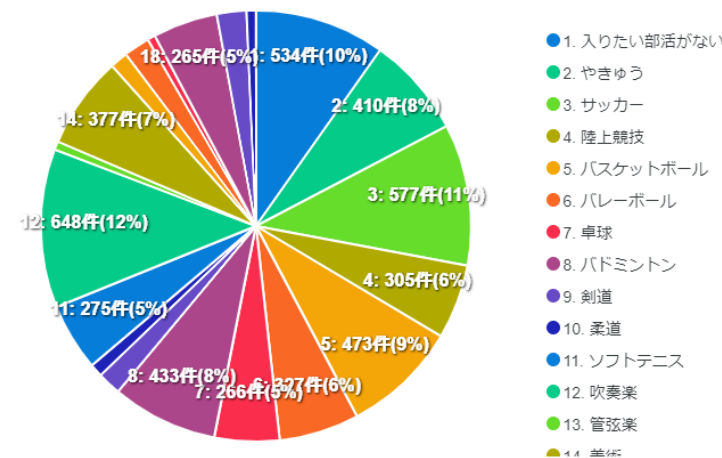
これらの協力を得ながら、市川市独自の地域移行を進めていく。

令和6年度 市内の文化部活動（市内16校）

| | | | |
|-------|-----|------|-----|
| 美術部 | 15校 | 吹奏楽部 | 15校 |
| パソコン部 | 6校 | 合唱部 | 5校 |
| 茶道部 | 2校 | 演劇部 | 2校 |
| 管弦楽部 | 1校 | 華道部 | 1校 |
| 英語部 | 1校 | 文芸部 | 1校 |



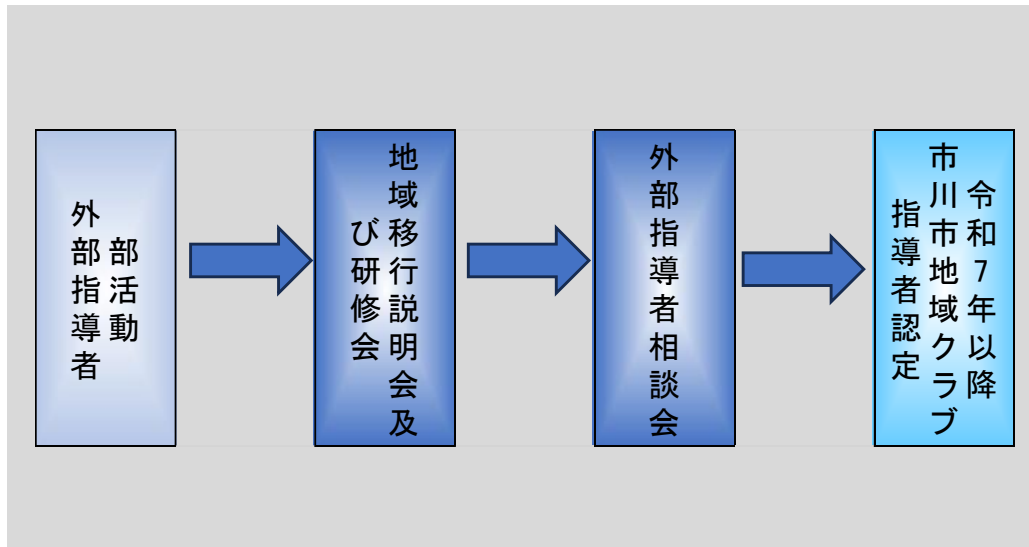
市川市の中学校にある部活動の中で、あなたが1番入りたい部活動の種目を教えてください



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・外部指導者人材確保事業を行い、指導者の確保を行う。
- ・地域移行を進めるために全体構想を固め、今後の方向性を示す。
- ・学校や指導者との連絡調整

◎市長部局

- ・総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会との連絡調整
- ・東部総合型地域スポーツクラブの設立サポート

年間の事業スケジュール

| | |
|-------------------------|---|
| 令和6年3月 | 東部総合型地域スポーツクラブ 設立 |
| 令和6年4月 | 部活動外部指導者の決定、 各部活動の指導開始 |
| 令和6年8月 | 校長ヒアリング |
| 令和6年9月 | モデル校（第四中学校の5部 活）を地域クラブ化し運用開始 |
| 令和6年10月 ～ 令和6年12月 | 指導者アンケート、生徒アンケー ト、保護者アンケート実施 |
| 令和6年12月 | 外部指導者人材確保事業開始 （案内文送付、指導者アンケー ト実施） |
| 令和7年1月 | 部活動地域移行説明会及び研 修会実施 |
| 令和7年2月 | 指導者相談会、フォローアップ実 施 |
| 令和7年2月 | 成果報告書作成 |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

| | | | |
|----------|--|-------------|------|
| 中学校数 | 1校 | 実施した地域クラブ総数 | 5クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 5クラブ |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 0クラブ |
| 全体の指導者数 | 7人 | 全体の運営スタッフ数 | 5人 |

②各クラブに関すること

| 中学校名 | クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 | 実施回数 (平日・休日) | 実施時間帯 | 参加者 (学年別) | 実施期間 | 指導者数 | 運営スタッフ数 (他クラブと兼務) | 会費 | 大会参加方法 |
|-------|---------------|--------------------------------|----------|-----------------|-------|------------------|------|------|----------------------|------------------|---------------|
| 第四中学校 | 陸上クラブ | 東部 総合型 地域 スポーツ クラブ | 陸上 | 休日月1～2回 | 休日3時間 | 1年生20人 2年生20人 | 9月～ | 1人 | 5人 | モデル事業のため 会費無し | 第四中学校 の部活動 |
| | 女子バスケットボールクラブ | | バスケットボール | 休日月1～2回 | 休日3時間 | 1年生5人 2年生4人 | 9月～ | 2人 | | | |
| | サッカークラブ | | サッカー | 休日月4回 | 休日3時間 | 1年生8人 2年生8人 | 9月～ | 1人 | | | |
| | 男子ソフトテニスクラブ | | 男子ソフトテニス | 休日月1～2回 | 休日3時間 | 1年生14人 2年生16人 | 9月～ | 1人 | | | |
| | 剣道クラブ | | 剣道 | 休日月2～3回 | 休日3時間 | 1年生5人 2年生5人 | 9月～ | 2人 | | | |

④クラブ運営を行った成果と課題

・モデル校として、休日のクラブで運用した結果、顧問の先生からは「専門的な指導が受けられて子供たちにとってよい」「顧問が休日休むことができるため働き方改革につながる」などの成果が見られた。ただし、指導者が月1～3回しか活動できなかったため、全ての休日において安定した活動はできなかった。ここでも、指導者確保について大きな課題となっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

本市においては、基本情報にも記したとおり、運動部169部活、文化部49部活の計218部活が活動している。

現在の市川市の生徒数については、ゆるやかな減少傾向がみられ、適正な人数でクラブ運営を行うにしても、大幅なクラブ数の減少は見込めない。

令和6年10月に行った中学校教員アンケートの結果より「部活動顧問の負担は大きいですか」の問いに対し、**80%の教職員が「負担は大きい」と**回答した。

また、「部活動の顧問をやることについてどのように考えていますか」の問いについては、**60%の教職員が「やりたくない」「できればやりたくない」と**回答した。

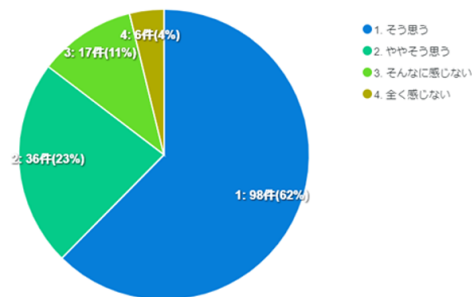
地域移行を進める上で、現在実施されている市内218部活を全てクラブに移行していくには、指導者の確保が一番の課題となる。そのため、今回の実証では「人材確保事業」を行うことで、専門的な指導ができ、教員や生徒、保護者から信頼の厚い指導者をクラブ指導者として確保していき、現場のスムーズなクラブ化につながると考える。

【R6市立中学校教職員アンケート】

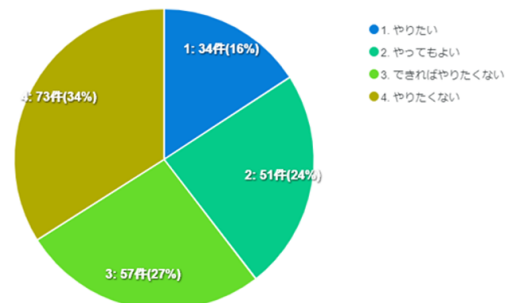
R6. 10. 21現在

教師の負担について

部活動の顧問（指導）の負担は大きいと思いますか？



後、部活動の顧問（指導）をやることについてどのように考えていますか



今後の課題と対応方針

教員の中には、顧問になりたくないと感じている教職員は多くいるものの、一方で「顧問をやりたい」と意欲的な教職員も一定数いることがわかった。

まずは、令和7年度から部活動の顧問になることに負担を感じている教職員の負担を取り除けるようにクラブ化を進めていき、令和8年度以降には、部活指導に意欲的な顧問も兼職兼業でクラブ指導ができる形を整備していく。また、複数体制での指導を目指すため、指導者確保は、継続して進めていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

地域移行を進めていく上では、1クラブ複数指導者体制での運営を計画しているため、地域から信頼される指導者を十分に確保することが、大きな課題となっている。

部活動運営に携わっている外部指導者は、専門的な指導ができる上に、学校の教員とも連携を取ることに長けている。さらに生徒や保護者からの信頼が厚いため、外部指導者が地域クラブ指導者として活動していけるとスムーズな地域移行につながる。

外部指導者人材確保事業として、今後の市の方向性の説明と研修会を兼ねた形で、より信頼される指導者を確保する。

外部指導者数

46名

外部指導者の年齢構成

| | |
|-------|-----|
| 10代 | 1名 |
| 20代 | 7名 |
| 30代 | 4名 |
| 40代 | 12名 |
| 50代 | 7名 |
| 60代以上 | 15名 |

登録者属性

部活動顧問からの推薦を受け、学校長が承認した専門的な指導ができる指導者であり、年度初めに保健体育課主催の指導者研修を受けた指導者。

種目

| | |
|--------------|------------|
| ・サッカー 8名 | ・陸上 4名 |
| ・ソフトテニス 5名 | ・ソフトボール 2名 |
| ・野球 4名 | ・柔道 1名 |
| ・バレーボール 5名 | |
| ・バスケットボール 2名 | |
| ・剣道 8名 | |
| ・卓球 5名 | |
| ・バドミントン 2名 | 合計 46名 |

取組の成果

顧問からの指導実績報告書には、「生徒の技術力が向上した」「試合時のメンタル面での整え方を丁寧にアドバイスしてくれた」「生徒たちと良好な関係を築き指導を行っている」「県選抜にも選手を送り出すなど地域のレベルアップにも貢献している」「大会では運営のサポート、審判なども行ってくれた」など指導者に厚い信頼を寄せる意見ばかりだった。

以上のことから、外部指導者がクラブの指導者として適任であることが改めてわかった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

令和7年1月30日（木）に「令和6年度市川市部活動地域移行における説明及び研修会」を開催した。

ここでは、来年度以降の本市における地域移行の方向性を説明し、指導者として生徒たちの将来を見据えた指導と市川市部活動ガイドラインに準じて生徒育成をしていくことで、勝利至上主義やハラスメントなどのない、地域から信頼される安心・安全なクラブ運営につながることを説明した。

また、事前アンケートの中で出た質問についての回答も交えつつ進行的な研修を行った。

質疑応答時間も設けたところ、多くの指導者が発言をし、現状の問題点や今後に向けた要望などたくさんの意見が出た。

事後アンケートについては、その場で実施しなかったため、回答率が低かったことが反省点である。

指導者研修の参加実績

本説明会及び研修会では、46名中 22名が参加し、2名がリモートでの参加となった。事前アンケートでは、地域移行への関心は高かったが、外部指導者の多くは本業があるため、1日のみでの開催については課題が残った。

受講者の声

事前アンケートの中で、「競技経験のない顧問の先生も増えてきている中で、経験のある指導者が指導を行うのは良い取組だと思う」という前向きな意見もあれば、「具合的なプランが見えない」「指導者に対して一定の報酬が担保されないと持続可能な活動が困難であり家計への影響が懸念される」などの意見も出た。また、「クラブとして目標をどう設定するか」「小中体連との兼ね合いはどうなるか」「報酬はどの位か」などの質問が出た。

研修会内での質疑応答では、「鍵の管理などはどうするか」「クラブとして自由にやってよいのか」などの質問が出たり、「スポーツ協会とつながっているのだから、地域移行のサポートをします」という意見も聞くことができた。

今後の課題と対応方針

本説明会及び研修会では、外部指導者の様々な意見が出た中で、令和7年度からの実施について、多くの課題が浮き彫りとなった。また「指導の手引き」の作成の必要性も指摘された。また、今回、リモートでの参加も行ったが、参加率は約50%だったので、フォローアップを全員に行っていく、今後のスムーズなクラブ指導ができるよう整備をしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保③

指導者相談会の内容

2月18日（火）、21日（金）の2日間にわたって、指導者相談会を行った。今回の目的としては、1月30日（木）に開催した「令和6年度市川市部活動地域移行における説明及び研修会」での説明でも疑問や不安を感じる方がいると想定し、可能な限り安心して指導者として活動してもらいたいという狙いがあった。

今回、2名の方が相談会に参加した。また、外部指導者ではない方で「地域移行のサポートをしていきたい」と相談会とは別で参加してくれた方もいた。

時間を割いて参加してくれる方だけあって、相談会では新たな質問や疑問、意見やアドバイスなどをいただき、今後の地域移行に向けてどうしたらよいかなど、建設的な話げできた。

指導者相談会の参加実績

- 2月14日（金）1名 種目：サッカー
- 18日（火）1名 種目：野球
- 21日（金）1名 種目：ソフトボール

受講者の声

- ・社会体育として、夕方以降に体育館やスポーツ施設を借りて活動している団体が市川市には多くある。こういった団体にも協力を得ていくのもよいのではないかと。
- ・未来を見据えた構想が必要であり、地域移行が目的になるのではなく、どんな形が市川市にとってベストなのかを考えて進めていく必要がある。
- ・受益者負担をできるだけ軽減するために、プロスポーツ団体やスポーツ企業、大学と連携していけるとよいのではないかと。
- ・地域指導者として、どの場所でも指導をする意思はあるが、地域の実態なども踏まえて、慎重に検討していきたい。
- ・練習試合や活動場所の調整については、今まで顧問の先生がやっていたので、どのようにしていけばよいかなども不安材料。

今後の課題と対応方針

いただいた質問や意見を共有するなどフォローアップを全員に行っており、更に地域移行のメリットや課題を探っていく中で、今後のスムーズなクラブ指導ができるよう整備していく。今後も、外部指導者はもちろん、多くのスポーツ団体とも連携を取っていくことが大切であると認識している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保④

指導者フォローアップ

指導者相談会の他に、指導者46名全員へのフォローアップとして、電話連絡にて、改めて「部活動地域移行の説明会及び研修会」で話したことを踏まえ、今後クラブの指導者になっていくことについてのアンケートを行い、同時に「不安なこと」や「今後の要望」などの相談を行った。

その中で、不安なことについては「より具体的な方針を示してほしい」「毎週指導していけるか」「責任が重い」「顧問のサポートであれできる」などの意見が出た。

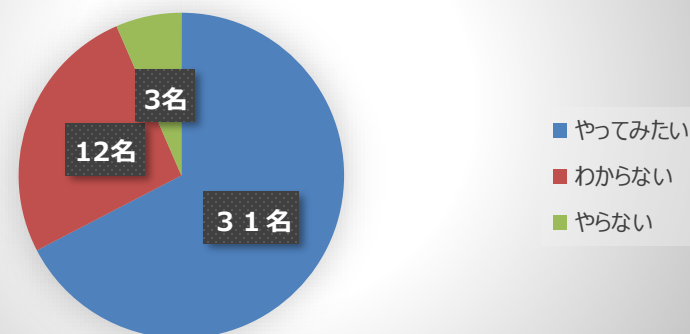
「今後の要望」としては、「子供たちのためになるものをつくってほしい」「指導者が複数体制だとありがたい」などの意見が出た。

話をしていくと、生徒のために活動したいという意思が感じられる方ばかりだった。

今後は、地域クラブ指導者として「やってみたい」という意見が多く、地域クラブ指導者になることを迷っている指導者も、個別で話をしていくことで、地域クラブ指導者として活動する意欲を見せている。

アンケート結果より

事後アンケート 地域クラブ指導者としてやってみたい



今後の課題と対応方針

地域移行説明会及び研修会を行いアンケート調査の結果でも、31名の指導者が地域クラブ指導者になることに前向きな姿勢を示している。今回の「人材確保事業」と同様に、現在の外部指導者はもちろん、市内各総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会加盟団体などにも丁寧な説明やフォローアップをしていくことが本市が目指す地域移行につながっていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

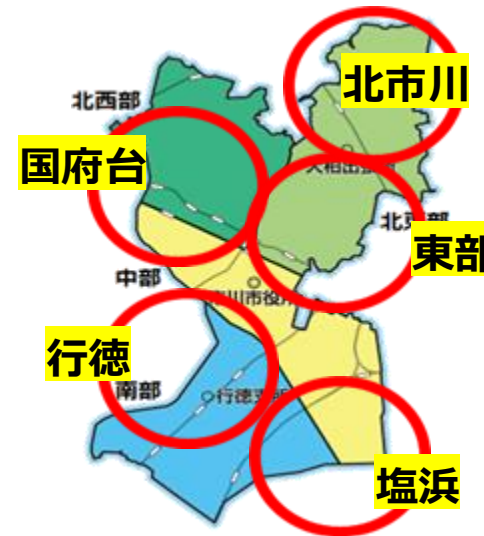
●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

本市スポーツ部と連携し、令和6年3月に市川市立第四中学校区の地域スポーツの基盤となる「市川市東部総合型地域スポーツクラブ」を設立した。休日の学校部活動の段階的な地域移行に向けて、市川市立第四中学校を市のモデル校に指定し、まずは、外部指導者と連携してきたサッカー部、剣道部の他、女子バスケットボール部、陸上部、男子テニス部を令和6年9月から地域移行できるよう整備を進めた。

モデル校で今年度実施した地域移行への取組から、今後市内すべての中学校において学校部活動を地域移行するためには、既存の総合型地域スポーツクラブだけでなく、他のスポーツ協会加盟団体や民間事業者など受け皿の整備が必要となる。

市内各総合型地域スポーツクラブ



スポーツ協会加盟団体
クラブチーム
民間事業者

取組の成果

スポーツ部の協力もあり、東部総合型地域スポーツクラブの設立ができた。これにより、部活動地域移行完了に向けての第一歩を踏み出すことができた。また、他の総合型地域スポーツクラブも地域移行に協力的な姿勢を示している。

今後の課題と対応方針

市内すべてを地域移行をした場合、5つの総合型地域スポーツクラブだけでは、カバーしきれないことと指導者確保が課題となる。そこで、スポーツ協会加盟団体、クラブチーム、民間事業者などの協力を得ながら、受け皿の整備、指導者確保を行っていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

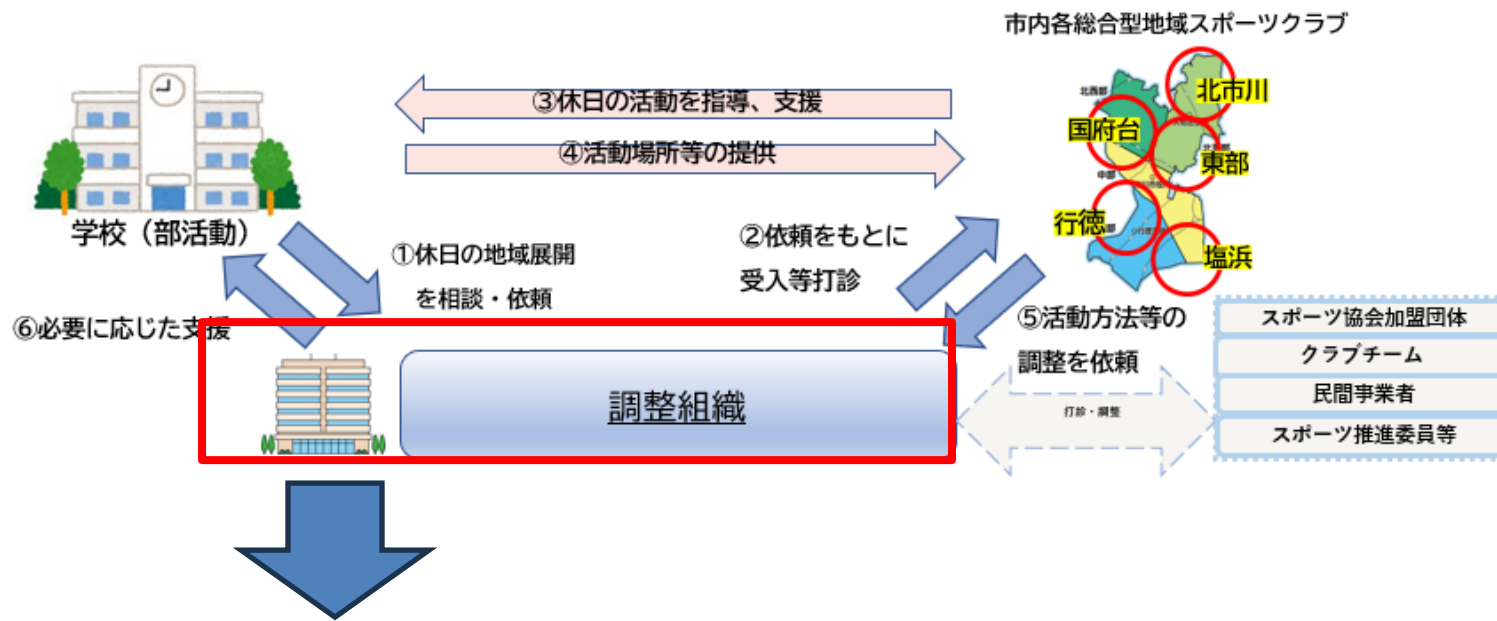


取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

事務局運営の方法



今後、全市的に展開するにあたり、希望する中学生や指導したい指導者をマッチングする機能や新たな受け皿を確保していく機能などを併せ持つ調整組織を令和7年度に教育委員会内に設立し、効果を検証する。

調整組織

令和7年度の調整組織については、本市の状況を理解した教育委員会内で運営していき、いずれは業務委託を検討していく。また、地域クラブの受け皿を総合型地域スポーツクラブが中心となって進めていくためには、受益者負担額などについても検討していく必要がある。そこで、部活動地域展開検討協議会（仮称）を設立し、今後の市川市にとって最良の方向性を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

市内のスポーツ関係団体

市内各総合型地域スポーツクラブ



スポーツ協会加盟団体

クラブチーム

民間事業者

スポーツ推進委員等

令和7年度については、部活動の顧問が専門的な指導ができなかったり、休日の活動が困難な部活動をクラブ化し、運営を行う。その後は、多様なニーズにこたえるために、他校生の受け入れや今までなかった種目（ゴルフやダンス、ボーリングなど）にも挑戦できるよう、地域と連携を取りながら整備を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

資料

指導者謝金、（生徒・指導者）保険料、消耗品費等のみ経費

| (クラブ数) | R7 (35) | R8 (70) | R9 (105) | R10 (140) | R11以降 |
|--------|-----------|------------|------------|------------|------------|
| 指導者1名 | 8,069,575 | 19,739,150 | 31,738,725 | 43,388,300 | 47,098,300 |
| 指導者2名 | | 32,650,300 | 52,785,450 | 72,570,600 | 79,640,600 |

- ・指導者謝金（時給1,600円×月4回×12カ月）
- ・生徒保険料（1クラブ30名×クラブ数×800円）
- ・指導者保険料（指導者数×2,025円）
- ・消耗品費等

指導者謝金、生徒・指導者保険料、消耗品費等（システム費、クラブ消耗品費等）の運営費のみの計上。可能な限り低廉な額での運営と全市クラブ化を令和10年に想定しているため、ここから本格的に受益者負担を開始予定。ただし、調整組織を委託していく場合、さらに経費が必要になることが見込まれる。

受益者負担の額、開始時期については、部活動地域展開検討協議会（仮称）で検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

モデル校（第四中学校）で先行して開始した結果、学校の協力もあり、スムーズな施設の利用ができた。用具の使用についても、学校との連携を取りながら進めることができた。

今後の課題と対応方針

市内全ての学校を地域クラブ化した場合、学校への協力要請や連携が必要になる。

用具の置き場や鍵の管理などの協力、休日学校に人がいない場合を想定した時の対応についての課題がある。

今年度の「人材確保事業」の指導者については、学校とつながりのある指導者ではあるが、学校との連携は必要不可欠である。



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市における多くの部活動を地域クラブに移行していくにあたり、地域クラブとして運営するための受け皿となる団体（総合型地域スポーツクラブなど）との調整・整備と同時に、専門的な指導ができる指導者の確保が必要である。

また、本市では、令和10年度に休日の地域移行完了を目指しているため、当面の間は、部活動と地域クラブ活動が混ざった状態での活動になる。

そのため、活動場所の調整や鍵の管理など、学校との連携は必須になる。そこで、学校の教職員以外で学校の状況をよく知っており、学校、教職員との連携が密にとれる人が指導者として必要である。

今回の「外部指導者人材確保事業」を通して、①専門的な指導ができる②学校（顧問）との連携が取れる③生徒や保護者から信頼が厚いなどの条件が揃った外部指導者の多くが地域クラブ化してからの指導者として活動する意思を示していることが、今後の地域移行を進める上で、本事業において最も大きな成果であるといえる。

●成果の評価

今回の「外部指導者人材確保事業」について、事前アンケートでは、16人の外部指導者が地域クラブ指導者になることを迷っていたが、「部活動地域移行説明会及び研修会」「指導者相談会」「フォローアップ」を行っていく中で、31名（15名増加）が地域指導者として活動してくれることを表明した。

また、指導者相談会では、新たなアイデアや情報なども知ることができたこと、教育委員会と外部指導者とのつながりが深まったことも大きな成果である。

| | 【実施前】 | | 【実施後】 |
|----------------|-------|---|------------|
| 地域指導者としてやってみたい | 16名 | → | 31名【15名増加】 |

●今後に向けて

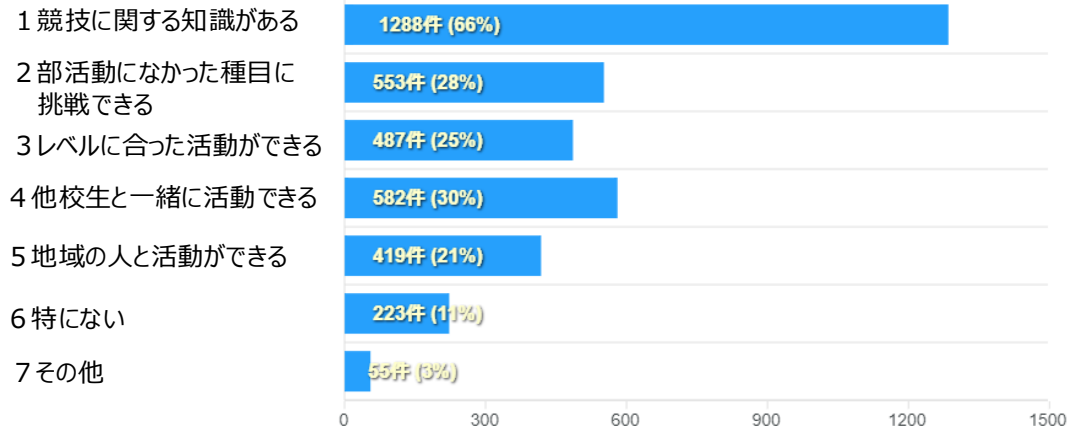
指導者の確保については①専門的な指導ができる②学校（顧問）との連携が取れる③生徒や保護者から信頼が厚いなど、質の高い指導者の数を確保していくことは難しいことが改めてわかった。まずは休日からの地域移行を進めているが、平日までの地域移行を進めていくには多くの課題があることもわかった。

今後も本市スポーツ部と連携しながら、総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会、民間のスポーツ関係団体の協力を得ながら、まずは、休日の地域移行を完了させたい。

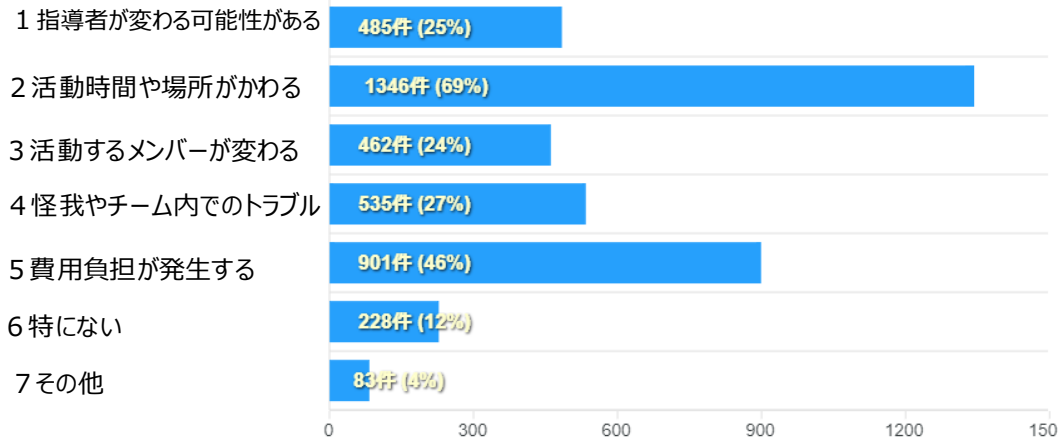
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

部活動が地域に移行したら、楽しみなことは何ですか（複数回答可）



部活動が地域に移行したら、不安なことは何ですか（複数回答可）



中学校 1, 2 年生保護者対象アンケートより（令和6年 1 2 月実施）

●モデル校の生徒・保護者・指導者・顧問の声（抜粋）

中学 2 年生

練習回数は少ないが、外部指導者が指導してくれる日には普段と違った練習ができるので、知らないことを学べたりして楽しい。

保護者代表

外部指導者が指導してくれる日は、子供が楽しみにしている。もっと活動回数が増えるとありがたい。ただし、今後、地域移行した時には、お金の管理はどうなっていくのかが心配です。

指導者

仕事があるため、月 1, 2 回程度の指導しかできないため、指導の積み上げが難しい。ただ、毎週の指導になると負担は大きく、指導はできない。

顧問

専門的な指導をしてくれて、自分では教えられない部分も指導をしてくれるので感謝している。また、休みが取れるので、働き方改革にもつながっている。

参考資料（活動写真）

市川第 20241223- 号
令和 6 年 1 2 月 2 4 日

市川市部活動地域指導者 様

市川市教育委員会
学校教育部保健体育課
課長

令和 6 年度市川市部活動地域移行における説明及び研修会の開催について（依頼）

時下、_____様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より学校教育活動を通じ、生徒の部活動の指導に御尽力を賜り、心より感謝いたします。

さて、このことについて、国の方針として部活動地域移行が打ち出されています。国の方針に従い、本市においても、部活動地域移行を進めるにあたって、部活動地域指導者協力事業の見直しを検討しております。

そこで、今まで生徒のために御尽力いただいている地域指導者の皆様、将来的には、地域クラブの指導者として活躍していただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおり説明及び研修会を開催いたしますので、LoGo フォームよりアンケート及び出欠についての回答に御協力いただき、説明会への参加をお願いします。

記

1 指導者対象研修会について

- (1) 日 時 令和 7 年 1 月 3 0 日（木） 午後 6 時 3 0 分から
- (2) 会 場 市川市役所第 2 庁舎 4 階 大会議室 1

住所：市川市南八幡 2-20-2 電話：047-_____

teams による参加も可

(teams での参加希望者は、①指導学校名②氏名を _____

にメールで送付してください。後日、当日の詳細を送付いたします。

- (3) 内 容 部活動地域移行についての説明及び研修会
説明「市川市の部活動地域移行の方向性について」
研修「地域から信頼される指導者とは」

- (4) 回答〆切 令和 7 年 1 月 2 2 日（水） LoGo フォームから回答

- (5) その他 ①本研修会は、地域指導者として令和 7 年 3 月まで指導していただく予定の方全員を対象に開催します。
- ②お手数ではありますが、上記の二次元バーコードより出欠席の報告等をお願いします。なお、変更が生じた場合は、下記の担当者まで御連絡ください。
- ※二次元バーコード等が使用できない方は下記担当者まで御連絡ください。
- ③本説明及び研修会に限らず、不明点や質問等があれば随時受け付けますので、下記の担当者まで御連絡ください。

※この文書に関する問合せは、保健体育課 _____ までお願いします。

【説明会及び研修会案内文】



【説明会及び研修会】

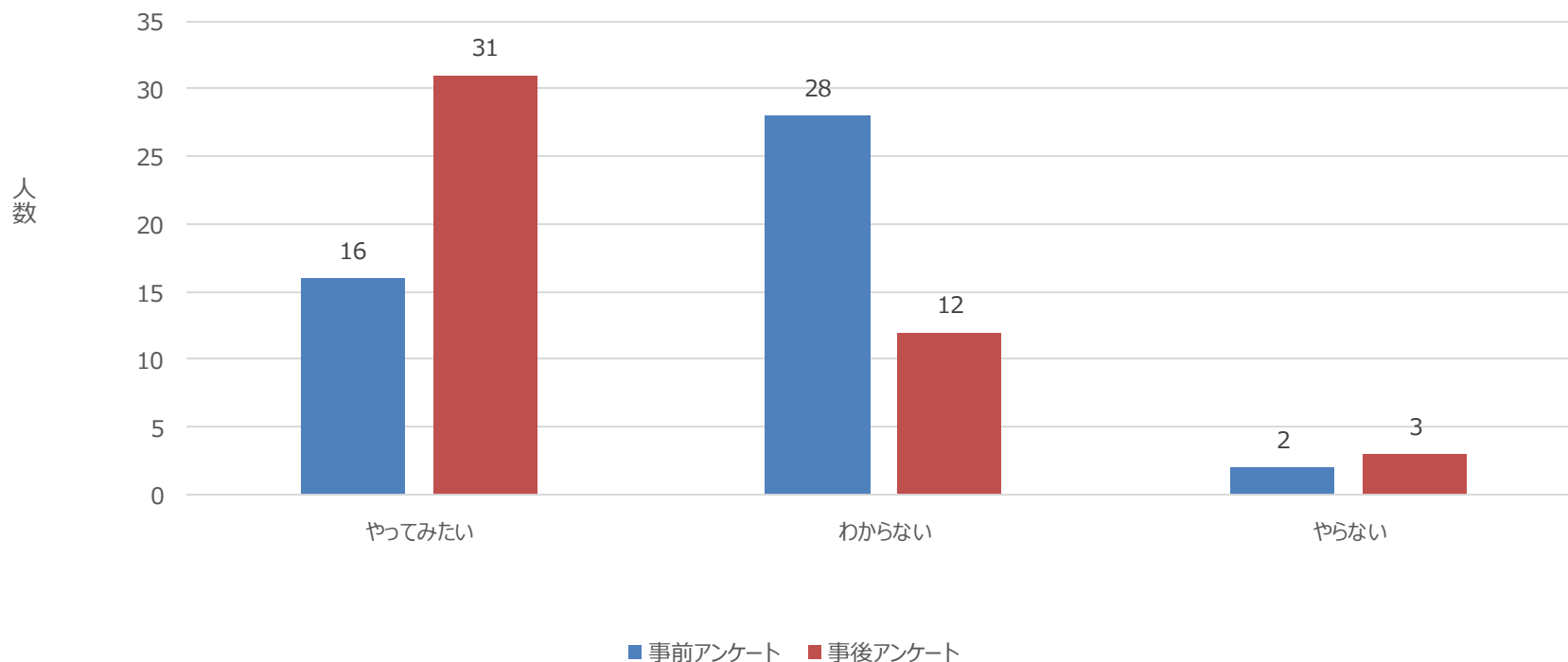


【地域指導者相談会】

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

地域クラブ指導者として活動しますか？



説明会及び研修会やフォローアップとしての1人1人に個別相談した結果、地域クラブ指導者としてやってみたいという人数が大幅に伸びた

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

| | R5年度 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
|---|----------------|--|---|--|--------------------|------------------|
| 国の新たな方針 <small>※「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」 中間とりまとめより</small> | 改革推進期間 | | | 改革実行期間(前期) 休日の地域展開に着手 | | |
| 市川市の方針 | ・東部総合型SC 設立 | ・第四中にて 5部活移行 <small>※参考 運動系:169部活 文化系:49部活 (うち、休日活動は、 約20部活)</small> | ・全中学校部活動 地域展開着手開始 (35部活分予算確保) ・東部以外の総合型 SC地域展開開始 ・部活動地域移行 検討協議会 (受益者負担など 課題の検討) | ・部活動の地域 展開を推進する (文化系部活の 地域展開着手) | ・部活動の地域 展開を推進する | ・休日の地域 展開完了予定 |

国が定める「改革実行期間（前期）」の期間の中で全市的に地域展開を進め、令和10年度を目途に休日の地域展開を完了させる

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県茂原市

自治体名：千葉県茂原市

担当課名：教育委員会教育部学校教育課

電話番号：0475-20-1558

1.自治体の基本情報

基本情報

| | |
|------------------------|--------------------------|
| 面積 | 総面積99.92 km ² |
| 人口 | 85,861 人 |
| 公立中学校数 | 6 校 |
| 公立中学校生徒数 | 1,911人 |
| 部活動数 | 49 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置済 |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 策定済 |

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

茂原市は、6つの中学校を有するが、そのうち4校は400名規模の学校、2校は200名を下回る学校規模である。現在、茂原市の運動部活動は、10種目の競技、6校合計で49の部活動が活動している。

少子化に伴い、1,2年生の新チームでは、他校との合同チームを編成する場合が出てきている。近隣の町村に比較すれば生徒数は多いものの、少子化や部活動加入率の低下により、今後に向けた持続的な部活動は難しくなっている。一方で、教員の働き方改革が課題とされる中で、休日の部活動に関わることを希望しない教員が

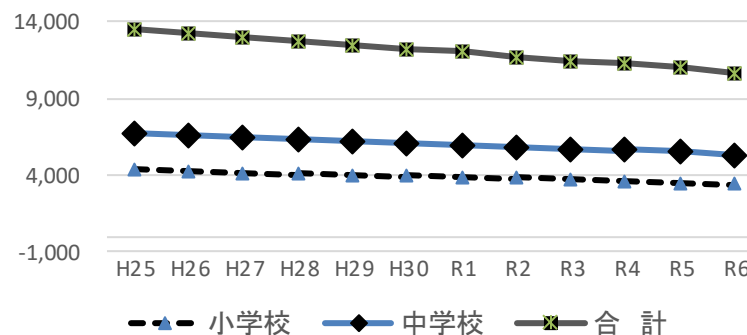
多く、この面からも部活動改革が望まれる。

部活動は、長年生徒指導の一翼を担い、学校経営の中でも重要な位置を占めてきた。

何よりも子どもたちが個性を伸ばし、気軽にスポーツや文化に触れることが出来る環境を作り上げていくことが重要である。

そのために地域ぐるみで休日の部活動を支えていく組織作りが必要となる。そのために、3年間の改革期間の中で、様々な情報を発信し、地域移行の受け皿となる地域クラブや指導者を掘り起こし、地域移行を進めていく。

茂原市立学校児童生徒数の推移

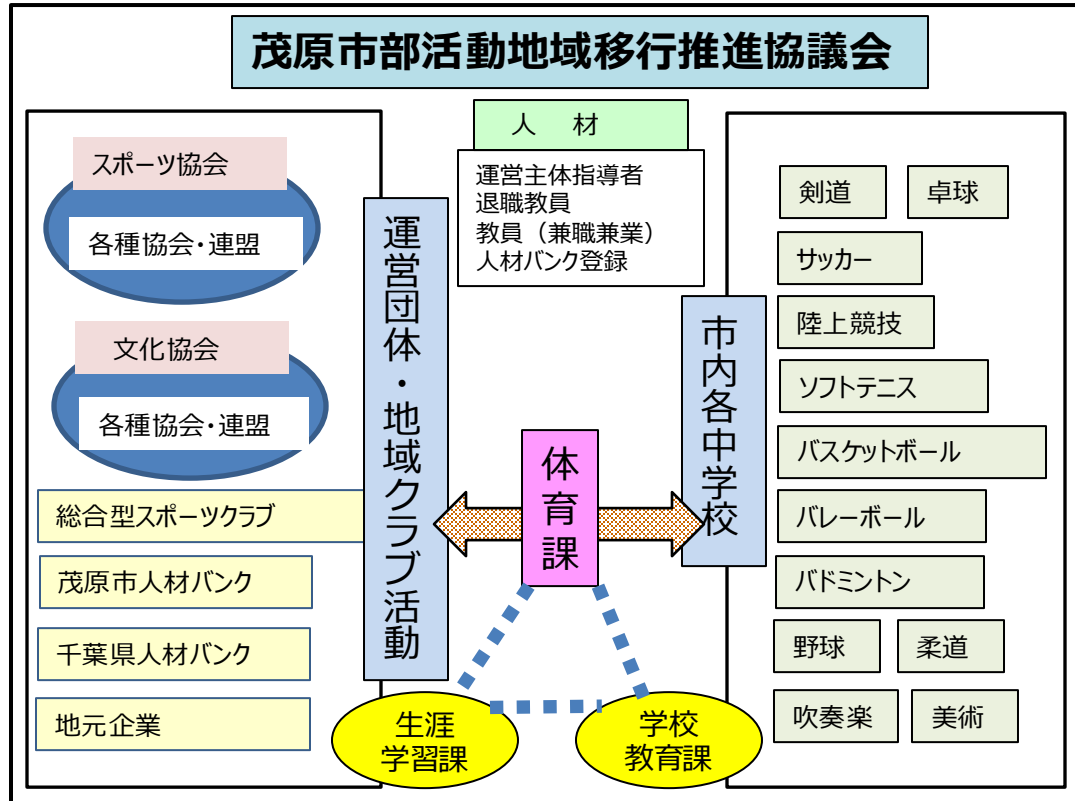


【課題】

- 各団体の高齢化や等により、中学生の部活動に関わってくれる団体や指導者の不足は大きな課題。
- 地域クラブの事務的な負担が大きく、地域クラブ設立の障害となっている。
- 参加費の発生や送迎については、保護者の負担となっている。

2.実証内容と成果

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・体育課……部活動改革の主管、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・生涯学習課…中学生の地域文化活動の環境整備
- ・学校教育課…教員の兼職兼業、教員の勤務時間等服務、楽器の管理、アラムの整備

- 令和6年4月 地域移行新入生向け説明会
- 令和6年4月 地域移行に関する意識調査
- 令和6年5月 バレーボール部説明会
- 令和6年6月 部活動後援会説明会
- 令和6年7月 学校顧問地域クラブ合同会議（バレーボール第1回）
- 令和6年7月 企業訪問
- 令和6年7月 令和6年度第1回推進協議会
- 令和6年10月 バレーボールの地域クラブ公募
- 令和6年11月 関係団体等の意向調査
- 令和6年12月 地域クラブ見学会
- 令和6年12月 令和6年度第2回推進協議会
- 令和7年1月 バレーボール部意向調査
- 令和7年1月 顧問地域クラブ合同会議（吹奏楽・野球・ソフトテニス）
- 令和7年2月 令和6年度第3回推進協議会
- 令和7年3月 地域クラブ向け説明会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 関係機関の総会や理事会等で地域移行についての説明をして協力を得る。
- 各関係機関にアンケートを実施し、地域移行参加への意向を集約する。
- 各中学校を回って、部活動後援会役員等に説明を行う。
- 学校顧問と地域クラブ指導者が意見交換をする合同会議の開催
- 茂原市の人材バンク及び情報登録制度
- 地域クラブ向け説明会開催

取組の成果

- 関係機関向けの説明会では、部活動地域移行に対する各関係機関の理解を得ることはできたが、地域移行への参入についてはなかなか進まなかった。
- 各関係機関に地域移行参入の意思を直接問い合わせた。しかしながら、自分たちの活動が精一杯で、中学生を受け入れる状況ではないという実態が分かった。若干ではあるが、協力の意思を示した団体もあった。
- 部活動後援会の説明会では、今後の部活動後援会の在り方について、様々な角度から意見交換の場となった。部活動の部費の主な財源は部活動後援会費であることから、今後の部活動後援会の立ち位置は重要である。
- 合同会議では、顧問と地域クラブ指導者から今まで想定していなかったような細かな内容が出され、地域移行を進めていく上での課題がより明確・具体的になった。
- 茂原市独自での人材バンクを開設した。また詳細の情報を直接届けるよう、情報登録制度を始めたが、こちらも登録者が少なく、実施主体整備のための有効な手立てにはなっていない。
- 地域クラブ向け説明会では、情報共有ができ、ある程度の効果はみられる。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・自治会回覧、Webページ、各種団体への説明を実施し広報に努めた。
- ・学校顧問と地域クラブ指導者が集まって情報交換をすることで、課題がより明確になり、新たな組織の具体像が見えてきた。

今後の課題と対応方針

- 指導者の人数が圧倒的に不足している。今後も、さらなる広報や協力の依頼をしていく。
- 学校と地域クラブの連携をさらに進める必要がある。
- 活動場所の確保について、さらに調整の必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

| 取組事項 | 人材バンクの人数 | 登録者属性 | 種目 | 資格有無 |
|--|------------|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 令和5年11月に人材バンクを設置し、指導者の確保に努める。 指導者に対して、資質向上のための研修を、年1回開催 各中学校に紹介し、平日の部活動を含めたマッチングを行う。 人材バンクに登録された方には、地域移行に関する情報提供。 | 11名 | 職業 ・会社員 4名 ・公務員 3名 ・農業 1名 ・自営業 1名 ・無職 2名 | ・柔道 3名 ・剣道 2名 ・サッカー 2名 ・ソフトテニス 1名 ・バスケットボール 1名 ・野球 1名 ・吹奏楽 1名 | ・日本サッカー協会D級 ・サッカー千葉県4級審判員 ・全日本剣道連盟初級指導員 ・全柔連指導者ライセンスC ・日本吹奏楽連盟指導者講習修了 |
| | 人材バンクの年齢構成 | | | |
| | 10代 0名 | | | |
| | 20代 2名 | | | |
| | 30代 2名 | | | |
| | 40代 3名 | | | |
| | 50代 1名 | | | |
| | 60代以上 3名 | | | |

取組の成果

- ・茂原市の人材バンクとして、11名の登録があった。
- ・地域クラブ説明会の際に、指導者研修会を合わせて実施した。第1回目は、33名の参加があった。
- ・茂原市人材バンク登録者については、平日の部活動の外部指導者として各中学校に紹介したが、マッチングには至らなかった。
- ・地域移行の情報を流すよう努めた。また、学校顧問との合同会議の案内を発送し、会議に参加していただき、学校顧問との間で地域移行に関する課題等を共有した。
- ・合同会議を行うことにより、平日の学校顧問による部活動と休日の地域クラブとの連携の基礎を作ることが出来た。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【地域クラブ対象研修】

- ・対象：地域クラブ向け説明会参加者
 - ・目的：地域クラブにおける生徒の主体性を生かした練習、
パワーハラスメントの防止、効果的な練習方法
- 工夫した点：地域クラブ向け説明会の第2部として開催した

指導者研修の参加実績

- ・開催日：（令和5年度）11月22・26日
- ・開催回数：年1回
- ・参加人数：33人

令和5年度については、地域クラブ向け説明会を平日の夜間と休日午前に行い、33名の参加があったが、この際に、第2部を研修会として開催した。

令和6年度は、平日の夜間のみの1回の開催としたが、6名の参加にとどまった。さらに、小中学校体育連盟主催大会の登録方法に変更があったので、令和7年度の予定を前倒しして、第2回目の説明会・研修会を平日夜間と休日午前を実施した。

今後の課題と対応方針

- 今後、地域移行に参加する地域クラブが増えてくるので、現行の方法ではなく、研修会単独で実施していくよう計画していかなければならない。
- 2年間については、地域移行担当コーディネータが資料を準備して研修を実施したが、今後は、講師を招聘していくことも考えていかなければならない。
- 東上総管内や長生郡市全体で組織的に指導者の資質向上に取り組むことも必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 茂原市の地域移行の周知と指導者の確保のために、関係団体の総会や理事会等の場で説明を実施する。
 - ・スポーツ協会 ・文化協会 ・スポーツ推進委員
 - ・スポーツ推進審議会 ・総合型スポーツクラブ
 - ・スポーツ少年団
- 企業を訪問し、企業内のサークルや指導者の地域移行に参入の協力依頼をする。
- 今後の部活動の部費や大会参加費等について、各中学校の部活動後援会に説明をする。
- 地域クラブ向けの説明会については、3月に時間帯を別にして2回行う予定である。それ以外に、今年度は、学校顧問と地域クラブの指導者が集まって、情報交換と今後の地域移行の将来像について話し合う機会を持った。

取組の成果

- 関係団体への説明の後、11月に地域移行参入への意思を確認する調査を行ったが、全体的に個々の活動は行うが、中学生の受け入れまではできないとの回答が多かった。
- 茂原市内の企業5社に連絡を取ったが、地域移行に関心を持ったところは2社にとどまった。この2社を訪問し、人材バンクへの登録や合同会議への参加を依頼したが、成果にはつながらなかった。
- 平日の部活動と休日の部活動で、活動するメンバーが違ったり、他校の生徒が入る場合も考えられる。これに対して、部活動後援会がどう対応するかが問題となるが、部費の確保のためにも、今後も継続して支援をしてもらえるようお願いした。
- バレーボールについては2回、吹奏楽・野球・ソフトテニスについては1回、学校顧問と地域クラブ指導者の会議を持ち、今後の地域移行の形などについて話し合うことができた。また、平日を指導する学校顧問と休日を指導する地域クラブ指導者の連携の足がかりを作ることができた

今後の課題と対応方針

- 依然として、指導者不足は大きな課題である。スポーツ協会や文化協会等の関係団体には、引き続き、地域移行の担い手、コーディネート役として協力依頼をしていく。
- 地域移行についての理解が深まるよう、引き続き各種説明会を実施していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 地域移行については、ほとんどの地域クラブが長生郡市全体から募集するようになっている。A中学校では、柔道部の保護者会が立ち上げた地域クラブがあるが、こちらはA中学校柔道部の生徒のみを対象としている。
- 長生郡市の各市町村の担当者による情報交換会を開催する。

事務局運営の方法

- 長生郡市で合同の運営は行っていない。
- 地域クラブ募集、地域クラブへの加入の際には、長生郡市全体のエリアで行うよう申し合わせをした。

取組の成果

- 長生郡市全体で情報共有、地域クラブへの相互加入の促進は担当者間で話し合っ
てはいるものの、新規募集での加入には至っていない。しかしながら、地域移行に特化し
た形でなければ、以前から市町村の枠を超えて加入している実態がある。
- 長生郡市全体で地域移行に取り組むという要望はあるので、今後も情報交換を密に
していく。

今後の課題と対応方針

- 各市町村が、地域クラブに金銭的支援をしている状況
が違う場合に広域で考えていくことが困難となるので、引
き続き協議をしていく。
- 令和9年度に、長生郡市全体で完全地域移行がで
きるように協議していく。
- 平日の部活動と休日の地域クラブでの活動の連携は
大きな課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- 本年度、地域クラブによる地域移行を行ったのは柔道部の1地域クラブである。
- 既存の地域クラブは、茂原市内及び長生郡市内全ての生徒を対象としているが、この地域クラブについては、A中学校の柔道部保護者会が設立し、保護者会会長が代表を務める。そして、学校顧問を指導者とし、謝礼を支払っている。

活動の詳細

| | | | |
|--------|---|--|----------------|
| 参加人数 | 20人 | 指導者数 | 3人（うち、兼職兼業教員1） |
| 属性 | 柔道部保護者会が設立した地域クラブ | | |
| 具体的な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○A中学校柔道部の保護者会が設立し、中学校の顧問を指導者として、指導謝礼を支払う形での運営である。 ○加入の対象は、A中学校の柔道部員のみを対象としている。 ○総合体育大会等への参加は、学校で参加することを前提とし、それ以外はこの地域クラブで参加しているが、シード権がかかる試合等、特に必要な場合は、教育委員会に申請し、許可を得ることとなっている。 ○市の方針の変更により、今後は、一般の大会でも中学校での参加が可能となる。 | | |
| 関係者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ○毎月の月謝を保護者会の担当が集金をして、指導者に謝金を渡したり、交通費を支出したり等の負担は大きい。 ○地域クラブの運営面での負担は大きい。以前のようなやり方に戻せないものか。 | | |
| 運営経費 | <ul style="list-style-type: none"> ○月謝を1家庭あたり3,000円を徴収している。 ○指導者には、月30,000円の謝礼を支払っている。 ○月謝から、謝金を支出した残金は、積み立てて、大会の遠征費等に充てている。 | 成果と課題 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ○現状、指導者が少ない中、既存の地域クラブではなく、保護者会による地域クラブという新しいスタイルを作ることが出来た。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ○クラブの運営で非常に負担が大きい。お金の管理も大変である。この点を行政に担ってほしいという意見もあったが、各地域クラブが自立することを目指しているので、運営については、助言をしながらこのスタイルを広める。 | |

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

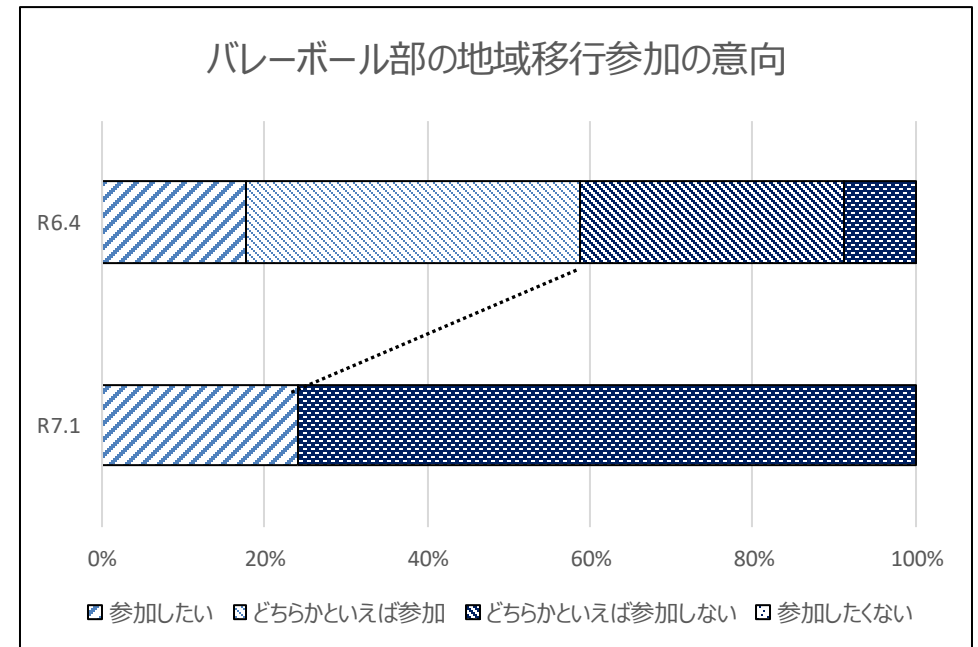
●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- A中学校では、部員22名中20名が保護者設立の地域クラブに加入した。
- 他の学校の他の競技でも、保護者が地域クラブを設立しようと準備を進めているところが出てきている。

今後の課題と対応方針

- 今年度地域移行を進めているバレーボール部では、地域移行に2つの地域クラブの応募があった。しかしながら、2つの地域クラブともに土曜日の夜間の活動であるため、近いところや日中の活動を希望する生徒がいて、1年間の再募集とすることにした。
- 4月当初に実施した市内中学生全員を対象とした意識調査結果とバレーボール部の地域クラブ見学会実施後の意識調査では、地域移行に参加したいと考えている生徒の数が減少した。生徒の意見の中に、同じ学校のメンバーで練習をしたいという声もあり、保護者会設立型の地域クラブが多く設立されることを期待する。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- 地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、地域移行の最初の段階から自立した地域クラブを目指し、財政的な支援は行っていない。
- 実証事業においては、市の部活動地域移行推進協議会の委員報酬のみに活用している。
- 支援が必要な家庭に対する補助については、教育委員会内の会議で検討をしているが、まだ具体的な取組には至っていない。

(資料) 各地域クラブの状況

茂原市は、各地域クラブごとの独立採算のため、運営費の詳細についても各地域クラブ任せている。

<A中学校柔道クラブ>

| | | |
|----|-----------------|------------|
| 収入 | 月謝（月3,000円）20人 | 年間720,000円 |
| 支出 | 指導者謝金（月30,000円） | 年間360,000円 |
| | 遠征費補助、会場費、その他 | 年間360,000円 |

<B柔道クラブ>

| | |
|----|-------------|
| 収入 | 保険料800円程度のみ |
| 支出 | 保険料800円程度のみ |

<C柔道クラブ>

| | |
|----|------------------------|
| 収入 | 保険料800円程度と月謝1,000円・遠征費 |
| 支出 | 保険料800円・会場使用料・遠征費 |

<Dバレーボールクラブ>

| | |
|----|--------------------|
| 収入 | 月謝2,000円、別途保険料 |
| 支出 | 保険料800円程度・消耗品・指導謝金 |

<Eバレーボールクラブ>

| | |
|----|----------------|
| 収入 | 保険料を含み月謝1,000円 |
| 支出 | 保険料800円程度・消耗品 |

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- 柔道では、令和5年度に従来から地域の道場として活動している2つの地域クラブが地域移行をスタートし、本年度は、A中学校で、保護者会が運営する地域クラブがスタートした。いずれの地域クラブも、保険料に関しては受益者負担としているが、指導者の謝金については、ほぼボランティアのところと指導者への謝礼金を支払っているところと様々である。
- 茂原市の地域移行は、地域クラブの運営等、全てを地域クラブに任せているため、事務局運営費等は市としては発生しない。

今後の課題と対応方針

- 茂原市は、地域移行の初期、地域クラブの設立当初から独立採算による自立した地域クラブを推進している。
- 現在の部員数を考えると、茂原市全体で200人を超える部活動から、少人数の競技と様々である。同一の月謝であれば、活動資金に差が出る。また、ボランティアで以前から活動している地域クラブもあり、家庭の負担を均等化していくことは大きな課題である。
- 月謝等、各家庭から参加費の徴収を行った場合、どのように集金をするか、また、集めたお金の管理と会計報告や監査をどうするかは課題である。
- 低所得世帯の支援をどのようにしていくかは課題である。現在のところは、要保護家庭に絞って支援をしていくことを中心に、検討を進めている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 学校施設の利用については、年度末に、各学校で次年度に向けた利用団体会議を行っている。この会議で、学校施設の1年間の利用予定が決まるが、この会議に際し、地域移行で学校施設を利用する際には、一般の団体に優先して地域移行の団体が施設利用ができるようにルール作りを行った。
- 市民体育館やテニスコート等の市の公共施設の利用が考えられるが、地域移行の団体については、半額に減免するようにした。

取組の成果

- 柔道の2つの地域クラブは、中学校の武道場を練習場として利用している。
- A中学校の地域クラブは、A中学校を今までと同じように使って活動している。

今後の課題と対応方針

- 1つの学校で、複数の地域クラブに通っている場合、その地域クラブが学校施設を利用しようとするバツティングしてしまうことがある。
- 休日の学校部活動が完全に地域クラブに移行してしまえば、今までの学校部活動が利用していた枠に地域クラブが入るだけなので、バツティングすることは少ないが、学校部活動との並立期間では、地域クラブが学校施設を使えないということが生じる。学校と地域クラブが十分な打ち合わせをしていく。
- 令和8年度の統合により、閉校となる中学校がある。この中学校の施設利用について、現在の閉校した学校施設運用方法だと、閉校時に利用していた団体のみの利用に限られるため、運用規定を見直していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

- A中学校では、平日の部活動について、学校の活動時間ではなく夜間に活動することもある。
- 現在、地域移行の受け皿となっている柔道とバレーボールの地域クラブについては、休日以外に平日の夜間にも何回か活動をしている。今後、平日の地域移行に取り組む場合は、現状のままでも受け入れは可能である。

取組の成果

- 学校部活動では、冬季の平日放課後の活動時間がほとんどないが、地域クラブ化することで、練習時間を確保できている。
- 地域移行の情報が子どもたちや保護者に浸透する中で、小学校から地域クラブに加入する数が増えている。また、茂原市の部活動にはない男子バレーボールを地域クラブで行う生徒も増えてきている。平日については、まだ方針を出していないが、自然な形で、平日も地域クラブで活動する子どもたちが増えてきている。

今後の課題と対応方針

- A中学校のように、学校顧問が平日と休日の両方を指導する場合は可であるが、休日の地域移行の指導者が平日も指導することは困難な場合が多い。（平日はそれぞれ仕事を持っている。）平日の指導者の確保は大きな課題である。
- 現状状況は、ほとんどの地域クラブが小中体連主催の大会への出場を希望しているが、希望をしていない地域クラブもある。この場合は、平日も移行すると、生徒たちは大会に参加できないことになってしまう。指導者の年齢、指導者資格の取得が障害となっていると思われるが、他の種目についても、指導者資格の所持は大きな課題である。資格取得のための金銭的な補助や代替研修の承認等、指導者資格取得のためのハードルを下げる取り組みが必要である。
- 学校施設を使って平日の活動を放課後行うには、学校の稼業時間内に地域クラブが学校内で活動することのリスクも考えなければならない。地域クラブの認可基準整備等が必要となる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 令和5年度より地域移行を開始した柔道については、生徒の人数が少ないこともあり、希望に応じた形で地域クラブに移行できた。
- しかしながら、バレーボールについては、応募のあった地域クラブは、夜間での活動のため、日中の活動を希望する生徒の希望に合致せず、1年間の再募集とすることにした。
- 今後、令和7年度は残りの10の部活動について、同様に募集をかけるが、指導者が大幅に確保できないことも予想される状況である。
- 各関係団体の総会や理事会等で部活動地域移行の説明を行い周知を図った。また、アンケート調査を実施し、地域移行に関わることができるか、実態を調査した。
- 地元企業にも協力を仰ぎ、定期的に情報発信をしている。

●成果の評価

- 柔道については、生徒の希望に対応した地域移行ができたが、バレーボールについては、生徒の希望に十分にこたえることができず、1年間の再募集となった。指導者不足は否めない。
- 残りの10の部活動については、吹奏楽・野球・ソフトテニスの学校顧問と地域クラブ指導者の会議を行い、種目ごとに様々な課題が出されたが、情報共有と今後に向けての建設的な意見交換ができた。

●今後に向けて

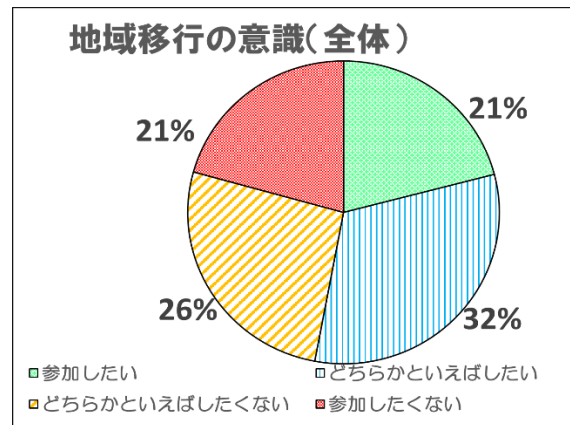
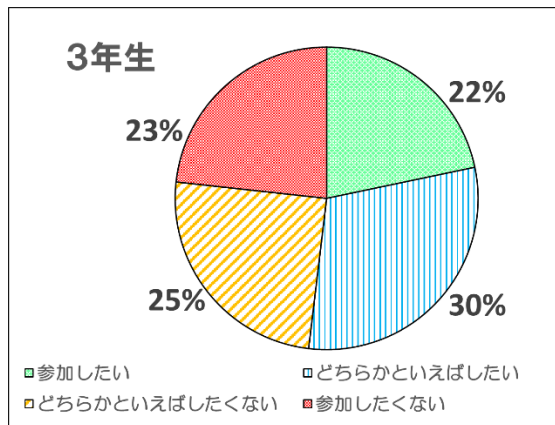
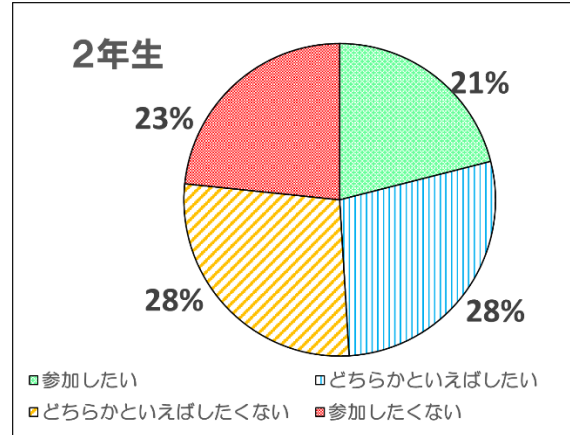
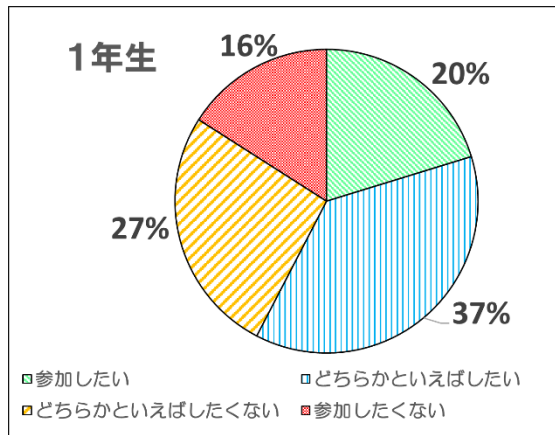
- 令和7年度地域移行の準備に入る10部活動については、引き続き関係機関や既存の地域クラブ、地元企業の協力を仰ぎながら指導者の確保に努める。
- バスケットボールでは、茂原市バスケットボール協会が中学生向けの教室を開設する方向であるが、この活動を広報し、さらに広めていきたい。
- 保護者会が地域クラブを組織する動きもあるが、そのために「設立の手引」を作成した。今後も、保護者クラブの設立に向けた支援をしていきたい。
- 部活動地域移行の周知について、まだ十分に理解いただけないところもあるので、「地域移行だより」を引き続き発行し、広報に努めたい。
- 学校顧問と地域クラブの合同会議を開催し、今後の地域移行について共有したい。

2.実証内容と成果②

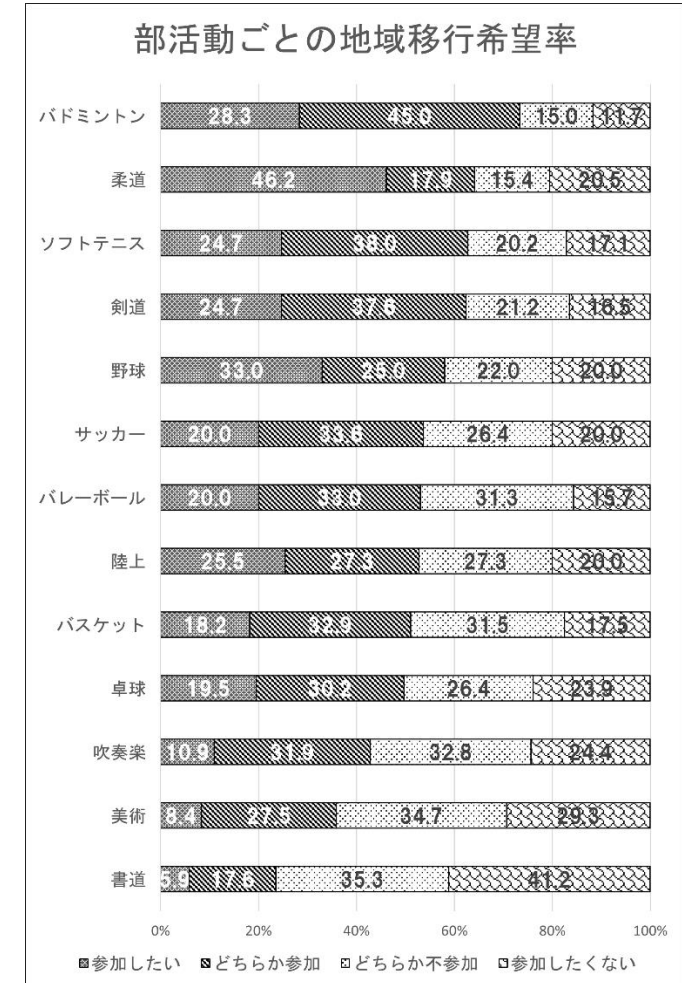
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（年度当初の意識調査より 令和6年5月）

<地域クラブに参加する気持ちがあるか>



<部活動ごとの希望率>

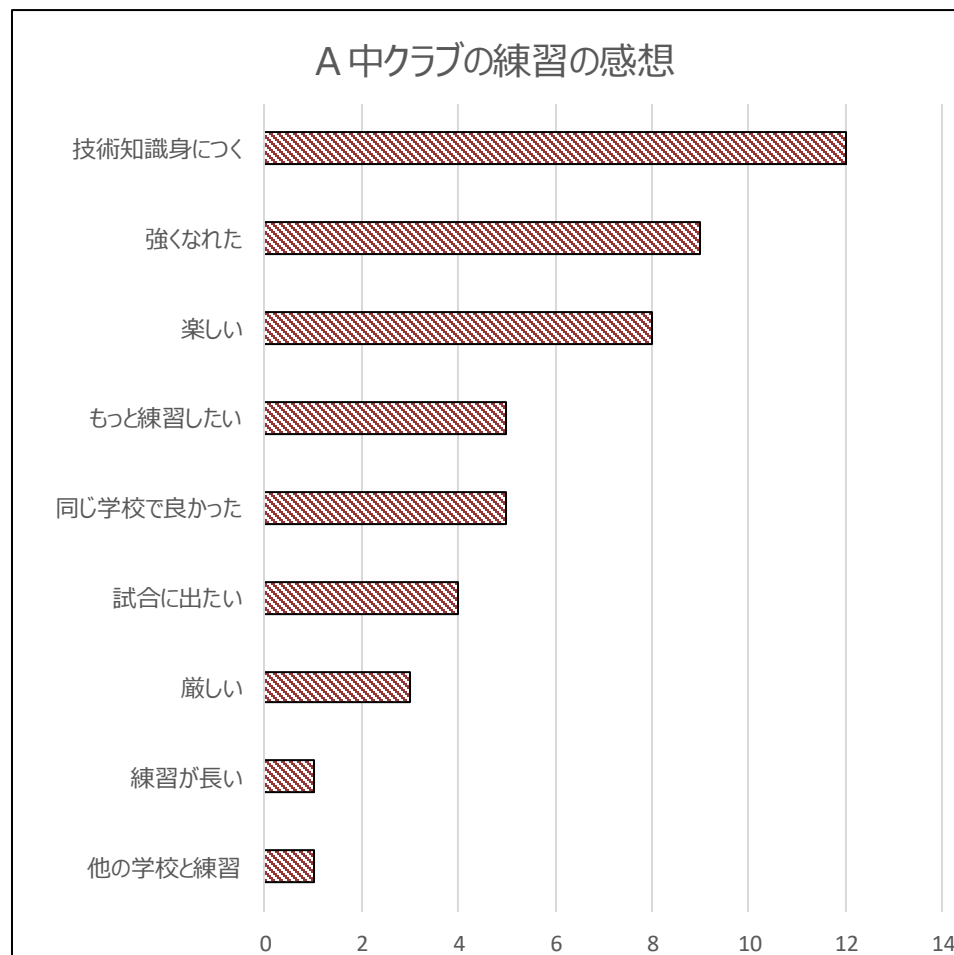
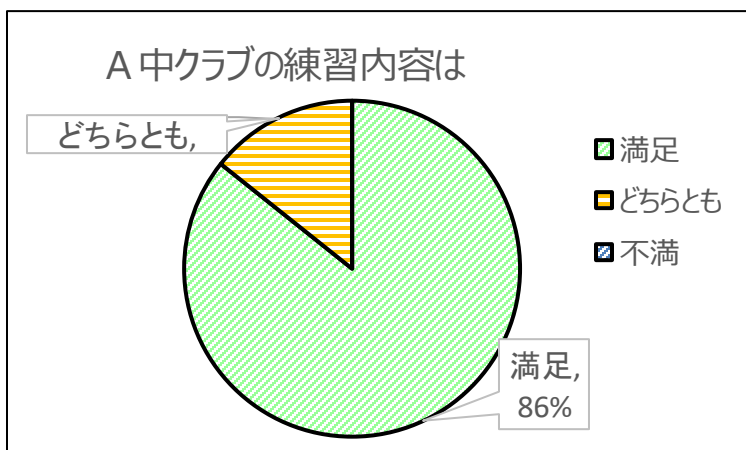
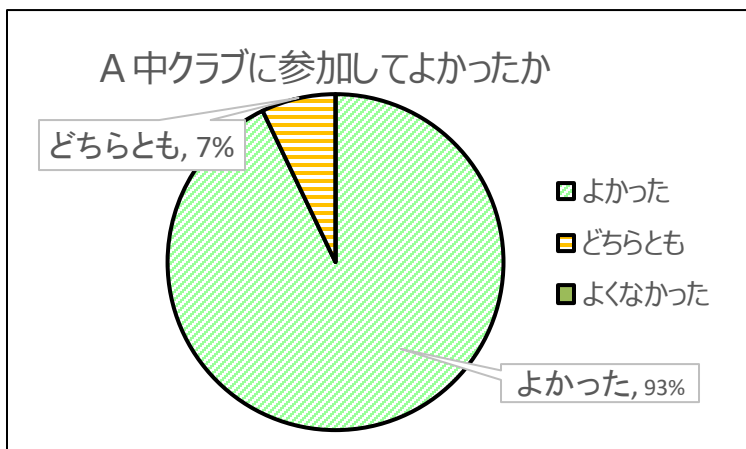


茂原市内中学生の意識（実施期間：令和6年4月～5月）の結果抜粋

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

バレーボール部については、1年間の地域クラブ再募集期間となったため、今年度、保護者による地域クラブ設立を行い、地域移行をしたA中柔道クラブにアンケート調査を行った。
(実施時期：令和7年2月 20名中14名回答)



アンケート結果・参加者の声

●参加者の声

中学3年生

練習に参加していて、寝技がより一層うまくなれたり、体重を増すことができるようになった。後輩ともよい練習ができるようになりました。

中学2年生

練習は最初は厳しいですが、学校の友や後輩と仲良くできたので楽しいです。

中学1年生

練習はきついけど楽しい。友達ともたくさん練習できて楽しいです。

中学3年生

他の学校の人と練習ができた、同じ学校の仲間と練習して技術や知識が身についたのと少しずつ強くなれてよかったです。

中学2年生

練習は大変だけど、とても良い仲間に出ているなと思います。

中学1年生

1回1回の練習で身につくことが多いです。

指導者

現在のところ、様々な課題が出てきています。

- ①クラブの規約について（設立時に多くの時間を割いて規約を作成したが、スタート後も新たな課題が出てきている。）
- ②毎月の月謝集金の問題（集金袋を毎月子どもたちに渡しているが、紛失のリスクがあり、集金する保護者の負担も大きい。）
- ③銀行口座の作成が困難（クラブの口座を作成するために何度も銀行に足を運んだが、作成のためのハードルが高い。）
- ④指導者不足（現在1名での指導、保護者もついてはいるが、実際に子供に指導する指導者は1人では厳しい。）
- ⑤保護者の負担（クラブの運営や事務処理、様々な手続きを復習の保護者がやってくれているが、負担が大きい。分担も不可能。）
- ⑥本業での残業時間の制限（業務途中でも切り上げて退勤しなくてはならないことがあった。）

【地域移行説明資料（表紙）】

新入生保護者説明資料

休日の中学校の部活動を段階的に地域へ移行します

令和4年12月に「中学校の部活動に関する総合的なガイドライン」により、全国的に休日の学校部活動は地域へ移行していく方針となりました。茂原市でも令和5年度から取り組みをスタートし、段階的に移行を進め、休日の学校部活動を完全に地域へ移行し、休日の部活動は学校では行わないことを目指します。地域移行後は、中学校の部活動は、平日は今まで通り学校で、休日は地域クラブで（有償）ということになります。

学校部活動の現状

- 少子化に伴い、単一学校での部員の確保・部活動の維持が困難。
- 教員の働き方改革が必要。
- 必ずしも専門ではない部活動の増加。

社会的状況

- 多様なニーズに対応し、生涯にわたってスポーツや文化活動に触れる機会を増やす。

千葉県目標では

- 令和5年：各町村1部活以上
- 令和6年：各中学校1部活以上
- 令和7年：各中学校複数地域移行

茂原市の部活動地域移行の計画は

- 令和5年度中に柔道の地域移行準備開始。さらに令和6年度にバレーボール部、令和7年度にすべての学校部活動で地域移行の準備を進めます。

休日の中学校部活動地域移行に関するQ&A

Q1 学校部活動と地域クラブの活動の関係は？

A1 平日は学校の顧問が指導し、休日を地域クラブの指導者が指導します。平日の学校部活動と休日の地域クラブでの活動は、重複しますが運動はしていないので、それぞれの加入は任意です。

Q2 地域クラブに参加する際の費用は？

A2 学校の活動外ですので、新たに運動保険に加入する必要があります。地域移行では、保険料を含めて参加費は保護者の負担となります。参加費は、地域クラブごとに異なります。

Q3 地域クラブがない場合は休日の部活動は？

A3 地域移行後は、地域クラブがない場合は休日の部活動は実施しないこととなります。ただし、当面、各種大会への参加と教育委員会が認めた場合は、学校顧問の引率での参加が可能です。

【人材バンク募集チラシ】

茂原市教育委員会教育課 電話 20-1575 Fax: 20-1607

休日の部活動地域移行の指導者になりませんか？

茂原市中学校部活動地域移行指導者人材バンク制度

少子化に対応した部活動とするために、令和8年度をめどに休日の中学校の部活動をすべて地域へ移行します。

そのためには、登録をお待ちしています

教育委員会でマッチング

休日の部活動を行う地域クラブと指導者が必要

土日だけだったら部活動を指導してみようかな

指導科目：サッカー・野球・卓球・ソフトテニス・バスケットボール・バレーボール・剣道・陸上競技・柔道・バドミントン・吹奏楽・美術・書道等

指導時間：土日のどちらか1日と祝日の3時間程度

活動場所：地域クラブが活動する公共施設や学校

申込方法：①申込用紙を、市役所9階体育課と市民体育館にあります。必要事項を記入し、市役所9階体育課または市民体育館窓口へ提出してください。（裏面コピー可）
②体育課のホームページから申込書をダウンロードし、メールで提出してください。

茂原市の休日の部活動地域移行の予定（千葉県計画変更で茂原市の変更あり）

- 令和5年度：茂原市内で1部活動の休日の地域移行の準備開始を目指す
- 令和6年度：前年度の取組を踏まえ、各学校で1部活動の休日の地域移行の準備開始を目指す
- 令和7年度：各学校で全部活動の休日の地域移行の準備を開始することを目指す
- 令和8年度：各学校ですべての休日の学校部活動の地域移行の完了を目指す
- 令和9年度：すべての休日の学校部活動を地域へ移行し、学校では行わないことを目指す

【地域移行だより】

休日の中学校部活動地域移行

地域移行だより

茂原市休日の学校部活動地域移行に関する計画を変更します

バレーボール部の地域移行は、地域クラブの公募、そして、見学会を終えました。今後、地域クラブへの参加希望の子選定を行い、休日の活動を希望する生徒の部と地域クラブの受け入れ人数から、今後の予定を決めています。

残りの10の部活動につきましては、令和7年度に準備を始め令和8年度より完全に地域へ移行することと計画しておりました。しかし、11月に千葉県計画の一部変更が示され、通日の「茂原市中学校部活動地域移行推進協議会」において協議を行った結果、市教育委員会として、以下のように計画の一部を変更させていただくこととなりました。条件が整った部活動については、従来どおり令和8年度から地域移行を行うこととなりますが、地域クラブの受け皿が不足する場合は再募集期間を設け、令和9年度から休日の部活動地域移行の完全実施を目指すことと変更いたします。

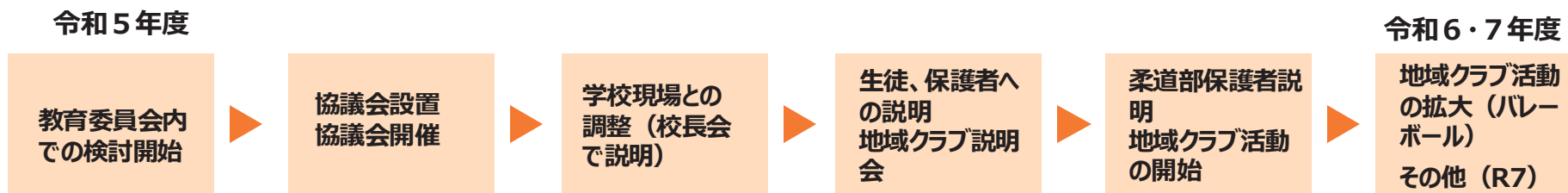
具体的には、現在の1年生が2年生になったときに、今までは、地域移行により、4月から休日はすべての部活動が地域クラブで活動することとしていたものも、受け皿が不足する部活動は1年間の再募集期間を設定し、この間は、学校部活動を行うように変更します。条件が整った部活動は地域移行となりますが、再募集となった場合は、令和8年4月から学校部活動が継続することとなります。

| | 変更前 | 変更後 |
|----------|--|---|
| 令和7年4月 | 10部活動地域移行準備開始 | 10部活動地域移行準備開始 <input type="checkbox"/> (変更なし) |
| 令和7年10月頃 | 地域クラブの公募 | 地域クラブの公募 <input type="checkbox"/> (変更なし) |
| 令和7年12月頃 | 地域クラブの見学会 | 地域クラブの見学会 <input type="checkbox"/> (変更なし) |
| 令和8年1月頃 | (変更) 準備調査・地域移行の可否 <input type="checkbox"/> | (変更) 準備調査・地域移行の可否 <input type="checkbox"/> |
| 令和8年2月 | (変更) 再募集の決定 | (変更) 再募集の決定 <input type="checkbox"/> |
| 令和8年4月から | 休日の学校部活動地域移行 | (変更) 再募集となった部活動のみ |
| 令和8年3月まで | 完全実施(開始) | 休日も順次による学校部活動実施 |
| 令和9年4月 | 休日の学校部活動地域移行 | (変更) 休日の学校部活動地域移行完全実施 |
| | 完全実施(2年目) | を目標 ※全部活動 |

変更後の茂原市の休日の学校部活動地域移行の計画

| | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-----------|-------------|-------------|-------------------|-----------|
| 柔道 | 休日部活動地域移行準備 | 立立期間 | 休日の部活動は地域クラブへ完全移行 | |
| バレーボール | 休日学校部活動 | 休日部活動地域移行準備 | 立立期間(再募集) | 地域クラブへ |
| 残りの10の部活動 | 休日学校部活動 | | 休日部活動地域移行準備 | 立立期間(再募集) |

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体
市教委、総括コーディネーター、コーディネーター

経過

令和5年度より教育部内で検討委員会を設置し、協議会に向けて、要綱の制定や地域移行の方向性、計画などについて話し合った。基本的なスタンスは、地域移行当初から自立した地域クラブに地域移行に参入をしてもらう方向であること、令和8年度をめどに、休日の部活動については学校では行わないなどの基本的な方針を確認した。さらに手引きの作成も進めた。

実施内容

令和5年度は柔道部の地域移行を進めることとし、12月から柔道の地域クラブの公募、2月に見学会を実施した。3つの地域クラブから応募があり、地域移行を希望する生徒は、3つの地域クラブに分散して加入をした。令和6年2月からスタートし、3月に本格始動となったが、7月の総合体育大会の終了までは、学校部活動との並立とし、令和6年9月から完全実施とした。

実施にあたって生じた課題

令和6年度は、バレーボール部での地域移行準備を行ったが、2つの地域クラブはいずれも夜間の活動で、日中の活動を希望する生徒のニーズに対応できなかったため、1年間の再募集期間とした。

令和6年度は、柔道で新たに保護者が運営する地域クラブが誕生したが、事務処理や金銭を取り扱うことに対する保護者の負担が大きいこと、柔道のみ2年間先行して保護者の負担が生ずることなどの課題があり、対応について一部変更をした。

今後の展開

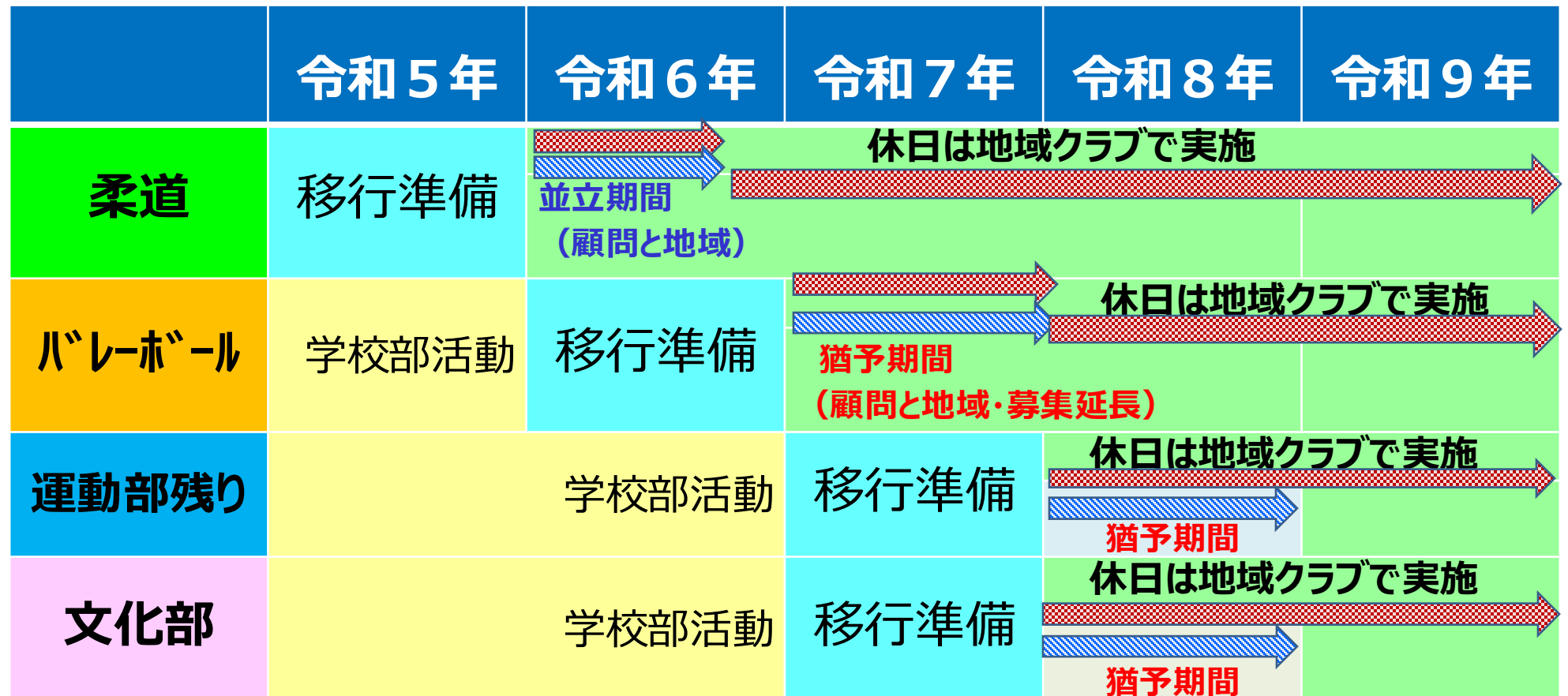
令和7年度は、残りの10部活動について地域移行の準備を開始するが、指導者不足は大きな課題である。

また、茂原市の地域移行について、県の方針変更によりいくつかの変更をした。このことにより、当初計画よりも教員の負担が減らない状況にもなる。

大会の運営や年間でのどの程度出場するか、種目ごとの登録や県大会出場規定の差をどうするかは課題である。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ*



当初予定では、令和5年度柔道、令和6年度バレーボール、令和7年度残りの10部活動をそれぞれ準備期間とし、令和5年度に地域移行スタート、令和8年からの完全実施を目指していたが、県の計画にしたがって、令和8年度は10部活動の再募集期間とし、令和9年度をめどに完全移行を目指すこととした。また、地域移行後も大会出場や特に理由がある場合は、学校顧問の引率を認めることに変更をした。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県 成田市

自治体名：千葉県成田市

担当課名：教育指導課

電話番号：0476-20-1582

1.自治体の基本情報

基本情報

| | |
|------------------------|------------------------|
| 面積 | 213.84 km ² |
| 人口 | 133,057 人 |
| 公立中学校数 | 10 校 |
| 公立中学校生徒数 | 3,511人 |
| 部活動数 | 94 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 令和4年12月設置（年2回開催） |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 今後策定予定 |

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

○学校における部活動は、少子化による部員不足・顧問不足・教員の超過勤務等などの問題で、これまでのような活動の維持が困難。

○地域で子どもたちのスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を維持するという意識改革・大きな転換期を迎えようとしている。

○令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁から示された「学校部活動及び新たな地域クラブの在り方に関するガイドライン」を策定。令和5年3月、千葉県では「地域全体で子供たちを育てる学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン」を策定。

○外部指導員、地域指導員、スポーツ関係団体、学校関係者、シティプロモーション部、教育委員会等を構成員とする「部活動地域移行に関する協議会」を令和4年12月から現在まで6回実施し、協議を重ね、県ガイドラインに沿った形で進める計画を作成。

○令和5年9月から西中学校柔道部をモデルとし、検証事業を開始しました。令和6年12月現在、市内のすべての中学校、義務教育学

校で1部活動を地域クラブに移行活動。

●教職員の過重労働

中学校で部活動の顧問となった教員は、通常の授業に加えて部活動の指導や引率も行うことで、休日出勤も含めたかなりの長時間労働となっている。

●適正な受益者負担額

困窮世帯への負担額を最小限に抑えた適正負担額の算出と他市町村の動向を踏まえて検討していく。

●小中体連主催の大会出場

各種種目ごとで大会規定が異なるため、「部活動に所属する人数が少なく、近隣学校と合同チームにならなければ大会等に参加」できない規定に即した地域クラブの立ち上げについての検討。

●自宅から活動場までの移動手段

自宅からあまりにも移行距離が長い家庭には、何かしらの対策を講じられるよう受託業者とともに検討。

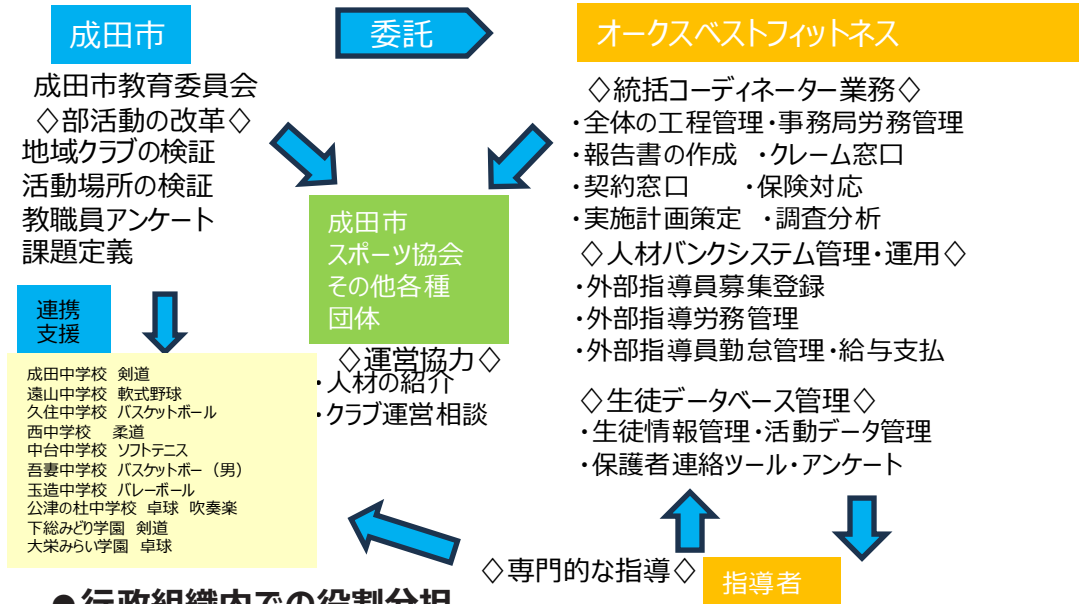
（●吹奏楽の活動場所・楽器運搬）

活動場所のセキュリティ、楽器の運搬について。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

- ◎**教育委員会 教育指導課（生涯学習課 学務課）**
 - ・協議会企画、運営
 - ・アンケート調査実施、集計
 - ・事業全体計画作成
 - ・関係機関との連絡調整
- ◎**首長部局（スポーツ振興課 文化国際課）**
 - ・協議会参加
 - ・関係団体との連絡調整

年間の事業スケジュール

| | |
|---------|---|
| 令和6年5月 | 第1回部活動地域移行に関する協議会 |
| 令和6年7月 | 仕様書詳細確認・契約確認 実施計画確認・要件設置 各所調整・指導人材確保 |
| 令和6年8月 | 委託業者プロポーザル 指導員説明会 保護者説明会 |
| 令和6年9月 | 10クラブ活動開始 |
| 令和6年10月 | 地域クラブ指導員合同説明会 |
| 令和6年11月 | 成田市小中義務教育学校児童生徒説明開始（29校） |
| 令和6年12月 | 成田市PR動画撮影 |
| 令和7年1月 | 成田市立中学校入学説明会 （中学校・義務教育学10校） 第2回部活動地域移行に関する協議会 |
| 令和7年3月 | 既存地域クラブ指導者説明会 指導員説明会 |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

| | | | |
|----------|--|-------------|-------------|
| 中学校数 | 10校 | 実施した地域クラブ総数 | 9クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 10クラブ（10部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 0クラブ |
| 全体の指導者数 | 40人（登録人数） | 全体の運営スタッフ数 | 9人 |

②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者 （学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数 （他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|-------------|--------|-------------------------|---------|------------|-----------------|-----------|-----------|------|----------------------|----------------|------------------------|
| 成田柔道クラブ | 一般企業 | 柔道 | 月4回／週1回 | 8:00～11:00 | 1年生11名 2年生9名 | 9/28～2/28 | 成田市立西中学校 | 3人 | 9人（内、兼務9人） | モデル期間中 会費なし | 中体連：地域クラブ その他：地域クラブ |
| 遠山ベースボールクラブ | 一般企業 | 軟式野球（新） | 月4回／週1回 | 8:00～11:00 | 1年生4名 2年生9名 | 11/3～2/28 | 成田市立遠山中学校 | 3人 | 9人（内、兼務9人） | モデル期間中 会費なし | 中体連：部活動 その他：部活動 |
| 成田剣道クラブ | 一般企業 | 剣道（新） | 月4回／週1回 | 8:00～11:00 | 1年生13名 2年生2名 | 10/5～2/28 | 成田市立成田中学校 | 3人 | 9人（内、兼務9人） | モデル期間中 会費なし | 中体連：部活動 その他：部活動 |

2.実証内容と成果

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者 (学年別) | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数 (他クラブと兼務) | 会費 | 大会参加方法 |
|-------------|--------|-------------------------|-----------------|--------------------|------------------|----------------|---------------------|------|----------------------|----------------|--------------------------|
| 緑風館 | 一般企業 | 剣道 | 月 4 回/ 週 1 回 | 8:30 ~ 11:30 | 1年生5名 2年生2名 | 11/3~ 2/28 | 成田市立 下総みどり学園 | 2人 | 9人 (内、兼務9人) | モデル期間 中会費なし | 中体連：部活動 その他：部活動 |
| NARITA CLUB | 一般企業 | バスケットボール | 月 4 回/ 週 1 回 | 8:00 ~ 11:00 | 1年生11名 | 10/6~ 2/28 | 成田市立 吾妻中学校 | 1人 | 9人 (内、兼務9人) | モデル期間 中会費なし | 中体連：参加なし その他：地域クラブ |
| NJソフトテニスクラブ | 一般企業 | ソフトテニス | 月 4 回/ 週 1 回 | 8:00 ~ 11:00 | 1年生8名 2年生3名 | 10/5~ 2/28 | 成田市立 中台中学校 | 1人 | 9人 (内、兼務9人) | モデル期間 中会費なし | 中体連：部活動 その他：部活動 |
| 成田バレーボールクラブ | 一般企業 | バレーボール | 月 4 回/ 週 1 回 | 8:00 ~ 11:00 | 1年生46名 2年生19名 | 10/3~ 2/28 | 成田市立 玉造中学校 | 4人 | 9人 (内、兼務9人) | モデル期間 中会費なし | 中体連：参加なし その他：参加なし |
| 公津の杜TTC | 一般企業 | 卓球 | 月 4 回/ 週 1 回 | 8:30 ~ 11:30 | 1年生16名 2年生15名 | 10/26~ 2/28 | 成田市立 公津の杜 中学校 | 3人 | 9人 (内、兼務9人) | モデル期間 中会費なし | 中体連：部活動 その他：部活動 |
| 大栄TTC | 一般企業 | 卓球 | 月 4 回/ 週 1 回 | 8:30 ~ 11:30 | 1年生6名 2年生9名 | 11/10~ 2/28 | 成田市立 大栄みらい学園 | 1人 | 9人 (内、兼務9人) | モデル期間 中会費なし | 例) 中体連：部活動 その他：部活動 |

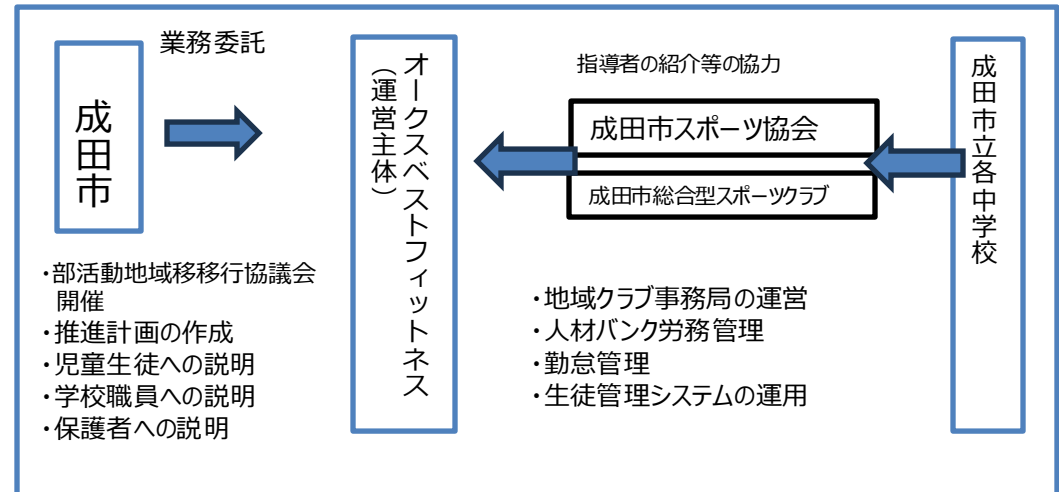
2.実証内容と成果

主な取組例

●成田市10クラブ 活動概要

| | |
|-----------------|---|
| 地域クラブ活動で実施した種目 | 柔道、軟式野球、剣道、バスケットボール、ソフトテニス、バレーボール、卓球（吹奏楽） |
| 運営団体名 | オクスベストフィットネス |
| 期間と日数 | 全クラブ：9月1日～2月28日 月4～5回程度 |
| 指導者の主な属性 | 地域指導員、兼職兼業教師 |
| 活動場所 | 成田市立各中学校 |
| 主な移動手段 | 徒歩・自転車 |
| 1人あたりの参加会費等（年額） | 公費負担 0円 |
| 1人あたりの保険料 | スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,600円/1時間 |

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：成田市教育委員会窓口

●主任指導者 2名

役割：運営統括サポート

●運営補助者 6名

役割：指導員管理・巡回

問い合わせ窓口 労務・給与支払い

指導員管理システム・HP・人材バンク運用

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

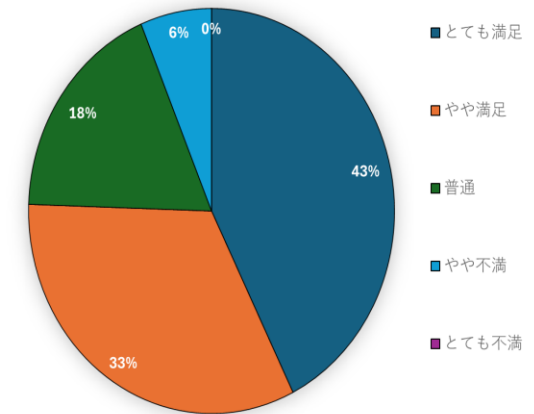
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

公募型プロポーザルにて運営事業者を募集し、報告書作成業務に委託した。

取組の成果

参加した中学生212人(2024年12月)を対象としたアンケートの結果、回答者の67%が回答。現在の地域クラブの活動に満足していると答えたのが76%となっており生徒、保護者ともにおおむね満足のおい活動ができている。指導者アンケート25名(うち兼職兼業4名)に結果から、やりがいや地域貢献を、子どもの成長を見守りたい旨の回答が半数を占めた。以前から課題となっていた指導者の報酬額、複数の指導者の配置が課題にあがっている。兼職兼業の指導者の声としては、複数の指導者活動しているクラブは、休日の確保ができることや子どもたちが色々な指導者に教わるができる、指導する分野を指導員で分けることができ、生徒によりきめ細かい指導ができるなどのメリットがあげられた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

運営委託業者…各地域クラブを巡回し、指導員のフォローや管理、事務との橋渡しを行う。また、地域人材の発掘向け、地域のスポーツ団体との会議に参加している。

部活動地域移行統括コーディネーター…北総管内の市町村の進捗状況をまとめ、情報提供をする。

今後の課題と対応方針

運営委託業者と契約しているにも関わらず、市教育委員会が学校と調整を図ったり、地域クラブ指導者との直接的に相談を受けたりするなど、行政が積極的に関わらないと改革の推進が困難であるのが現状。今後は、発足した地域クラブは、運営委託業者へ直接連絡し、相談していくよう再度説明会等を通して周知していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

成田市専用人材バンクを構築し成田市専門で人材を募集している。

指導経験・競技経験のあるスタッフの質と量の確保。

人材バンクの人数

40名

人材バンクの年齢構成

| | |
|-------|-----|
| 10代 | 0名 |
| 20代 | 9名 |
| 30代 | 11名 |
| 40代 | 8名 |
| 50代 | 8名 |
| 60代以上 | 4名 |

登録者属性

ホームページによる告知、チラシ、ポスターによる掲示、指導員同士の紹介、スポーツ協会の紹介や各種団体の紹介。また兼職兼業の教員の登録。スポーツ協会
スポーツ協会下部組織各種目団体との連携

種目

柔道、野球、バスケ、バレー、ソフトテニス、剣道、卓球、吹奏楽

資格有無

競技経験、指導経験

取組の成果

地域における各種競技団体、地域において活躍をしている競技経験者へアプローチを行い質の確保を行うことができた。

独自の研修制度を必須で受講させより質の高い指導を目指すことができた。

各指導員や団体の横のつながりを大事に地域をあげて部活動の地域クラブ移行を進めた。

専用人材バンクを設定することで、成田市で指導をしたい人材の募集や選定がスムーズに行うことができた。また、人材バンクに登録するだけで研修を受けることのできる体制を整えることができた。今後は、さらに指導者確保のためのPR活動の充実に努める。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・指導者概論
- ・指導員としての心構え
- ・指導員としての軸を発見する
- ・地域クラブ移行とは
- ・緊急時の対応
- ・指導員の人生も守るスポーツ指導者
- ・様々な緊急対応
- ・AED研修
- ・指導者における注意
- ・スポーツにおけるハラスメントとは
- ・円滑なコミュニケーション

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 10月31日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 40人

受講者の声

- ・これから、方針に従い地域クラブに協力をしていきたい。
- ・指導に入る為の心構えを準備することができた。
- ・部活動の移行のイメージが湧かなかったが、この研修を終えてイメージが確立されたと同時に、自分自身の使命感ややりがいを感じることでできる役割だと思った。
- ・いざという時の対応など、自分自身が一番落ち着いていないといけないという理解を改めて学び、活動中に何か起きたという想定で受講することができた。

今後の課題と対応方針

生徒も指導員も安全に活動をスタートするための準備として指導者概論を中心として研修を設けた。今年度は、オンライン上での研修のみの実施のため、今後は、対面での研修や実技を伴う研修会の開催を検討し、指導者の質の向上を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

成田市内で活動していた地域クラブが受け皿となって活動を開始した。

市内に1校のみ男子バレーボール部があり、地域クラブが開かれることにより、自校以外の男子生徒も、自分が所属する学校にはない種目に取り組むことが可能。拠点となっている学校のバレーボール部顧問が3年目で、バレーボールの経験がない。そのため、土日の活動をクラブ化し、教職員の働き方についての検証も行っていく。

活動の詳細

| | | | |
|----------------|---|------|----|
| 参加人数 | 79人 | 指導者数 | 4人 |
| 属性 | バレーボール | | |
| 具体的な内容 | 市内で男子バレーボール部が1校しかなく、バレーボールクラブを立ち上げたことにより、自校にバレーボール部がない生徒の参加が可能。 | | |
| 子供の声 | <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の知らないことを他者の考えから学ぶことができる。 ● 他の中学校の生徒と沢山、コミュニケーションをとる機会があり楽しい。 ● 指導者が一人ひとりに合った個別指導をしてくれる。 | | |
| 関係者の声 (保護者) | <ul style="list-style-type: none"> ● バレーボールが楽しく、生活の一部となっていて、クラブの時間を大切にしている。 ● 他の中学校の生徒との交流があり、刺激をもらっている。 ● 専門的な知識のある指導者に指導してもらえるので具能が向上した。 | | |
| 運営経費 | 消耗品費 5,000円 | | |

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- ・部活動地域移行を行う以前より地域で活動していたバレーボールクラブが地域移行の受け皿となり、活動を開始。
- ・市内の生徒、男女問わず加入し活動をしている。
- ・市内の男子バレーボール部が1校のみとなっているため、男子の活動の場が広がった。
- ・指導者は、専門的にバレーボールの知識がある地域指導者が中心となっている。
- ・拠点となっている中学校のバレーボール顧問は3年目でバレーボール経験はない。土日は、クラブ化となり、顧問の負担軽減にもつながっている。

今後の課題と対応方針

- ・クラブに在籍している人数が1年生50名、2年生27名、3年生2名、合計79名とかなりの大所帯となっている。現在、4名の指導員で活動をしているが、指導者の不足からの安全面の確保の心配がある。
 - ・現在の体育館では、79名での活動は安全性や個人の活動時間の担保が難しくなってきた。
 - ・現在は、小中体連主催の大会への参加は希望していないが、地域クラブ枠での大会参加規程が厳しく、大会参加が難しい。
- 今後は、市内を4拠点化し、クラブの人数を分散できるようにバレーボールクラブを増やしていく。また、生徒15人に対して1名の指導員がつけるよう指導員募集にも尽力していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

地域クラブの活動場所は、各中学校の体育館、グラウンドを中心に活動を行った。

柔道…西中柔道場 野球…遠山中グラウンド

剣道…成田中体育館 下総みどり学園剣道場

ソフトテニス…中台中テニスコート バレーボール…玉造中体育館

バスケットボール…吾妻中体育館 久住中体育館

卓球…大栄みらい学園体育館 公津の杜中体育館/多目的ホール

取組の成果

- ・実施している地域クラブの活動場所は、すべて校舎とは別のセキュリティとなっている体育館や武道場、グラウンドで行っているため、一般的な社会体育団体と同じように鍵の開錠・施錠ができる点では適していた。
- ・モデル事業を実施するにあたり、学校職員の理解と協力を得られたことで大きなトラブルもなく活動することができた。

今後の課題と対応方針

- ・将来的に休日の学校部活動が実施されず、地域クラブ等のみとなった場合、学校のグラウンドや体育館、武道場の調整をどの部署が担当するのか。
- ・体育館にはAEDが設置されているが、屋外には設置がない場合はどのように設置するのか。
- ・1クラブの生徒の人数が多くなってしまった場合の活動場所の確保。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- ・月に2回程度、「部活動地域移行だより」の発行。
成田市小・中・義務教育学校への配信。
- ・成田市小・中・義務教育学校29校、児童生徒への説明会の実施。
- ・保護者説明会での説明を実施。
- ・教職員向けの説明会を実施。
- ・部活動地域移行のPR動画の作成。

取組の成果

- ・「部活動地域移行だより」を発行することで、こまめに進捗状況や地域クラブの活動の紹介を掲載することができた。
- ・児童生徒への説明を行うことで、「地域移行」の流れや現在活動しているクラブ紹介ができ、理解が深まった。
- ・中学校の入学説明会で「地域移行」の説明を行うことで、理解につながった。



部活動の地域移行だよりの発行

<配布の工夫>

発行の際には、各学校で情報配信メール等を活用し、保護者への周知も行った。
市HPにも掲載し、様々な方への周知も行い、指導者の募集も併せて行うようにした。

児童生徒・保護者・教職員説明会

<小学校・義務教育学校前期課程>

現6年生を対象に成田市内の小学校・義務教育学校21校に出向き、説明を行った。

<中学校・義務教育学校後期課程>

現1年生（7年生）を対象に成田市内の中学校・義務教育学校10校に出向き、説明を行った。

<保護者説明会>

夏に1回、中学校の新入生説明会での説明を行った。

<教職員向け説明会>

希望のある学校に出向き、教職員向けに説明を行った。

今後の課題と対応方針

多くの説明会を行うことで、児童生徒、保護者、教職員の理解を深めることができた反面、既存の地域クラブ指導者への理解が進まなかった。今後は、既存の地域クラブも参加できる説明会を開催し、協力していただけるようにしていきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

成田市では、部活動の地域移行に向けて、様々な準備を進めている。部活動の地域移行について、部活動をそのまま地域に移行するという考え方ではなく、子供たちのやりたい活動を地域でできるようにすることを目指している。子どもたちが主体的に活動することで、在籍する学校に関係なく、それぞれやりたい種目の地域クラブに参加できるようになり、今まで以上に活動が充実すると考えている。

令和6年9月より、各中学校1部活動を地域クラブ化し、現在10クラブが活動を行っている。指導者は、教職員による兼職兼業や地域指導者となっている。学校施設が活動場所の拠点となっていたり、指導者が複数名変わったりするなどの変動がなかったため、大きな混乱はなく活動を開始することができた。また、各種目の経験者や専門的な知識を持つ指導者かたの指導は、生徒をはじめ、保護者からも好評であった。

生徒・保護者への周知活動としては、「部活動地域移行だより」を発行し、進捗状況をこまめに配信することができた。合わせた学校へ生徒、保護者、教職員対象の説明会を行い、市の方向性を理解していただく機会となった。

しかし、生徒の移動手段として保護者の送迎が多いこと、生徒がやりたい種目がモデル事業として実施していないこと、生徒の15名あたりに対して1名の指導者の確保、指導者の謝金の適正額、保護者や既存の地域クラブの指導者への理解、大会参加の条件など課題が山積している。今後は、現在活動している部活動のクラブ化の拡大を目指し、市内を4拠点化する計画である。課題となっているものの検証と合わせて、文化系のクラブ化（主に吹奏楽）の検証も行っていく。

●成果の評価

- ・市内中学校・義務教育学校で1種目のクラブを実施。教職員の兼職兼業のクラブが多かったため、指導方針、指導方法の違いについての混乱はなかった。
- ・クラブ化した部活動に関しては、教職員の休日の指導時間が軽減されたため、授業準備やプライベートの充実につながった。
- ・平日の部活動顧問と休日の指導者との連携がなされ、スムーズに活動ができた。
- ・「部活動地域移行だより」の発行により、保護者の関心が高くなり、より具体的な質問がなされるようになった。
- ・部活動地域移行の説明を行うために各学校に訪問することで、児童生徒、保護者教職員の理解を深めることができた。
- ・地域のスポーツ団体への中学生の受け入れを依頼し、受け入れ可能なクラブのリスト作成を行うことができた。

●今後に向けて

- ・実際の運営に近い環境を構築した中で、活動場所や指導者の確保、適正な受益者
- ・「ステップ型地域クラブ」（大会参加を目的とした地域クラブ）と「エキサイト型地域クラブ」（趣味嗜好を目的とした地域クラブ）のジャンル分けを行う。
- ・市内を4つの拠点に分け、人数が少ないところでも継続して活動ができるよう計画。
- ・小・中体連主催の大会参加ができるよう、専門部と協議していく。また、大会引率は地域クラブ指導者が帯同し、スムーズな移行ができるようにする。
- ・適正な受益者負担額の検証、自宅から活動場所までの移動手段の検証を行う。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（指導者）

| Q1 指導員として活動している理由を教えてください ※24名回答 | | Q2 指導を続けていく上で重要だと思うことを選んでください。（複数回答可） ※26名回答 | |
|-------------------------------------|---|---|----|
| ① やりがい・使命感を感じる | 4 | ① 指導者研修の充実 | 1 |
| ② 地域貢献として | 5 | ② 報酬 | 4 |
| ③ 子供の成長を見守りたい | 7 | ③ 活動と自身のスケジュール | 5 |
| ④ 指導員としてのキャリア向上 | 0 | ④ 保険制度の充実 | 1 |
| ⑤ 報酬が得られるから | 0 | ⑤ 生徒・保護者対応サポート | 6 |
| ⑥ 指導している種目への振興 | 5 | ⑥ 複数指導員の配置 | 10 |
| ⑦ その他 | 3 | ⑦ その他 | 4 |

Q3 来年も指導員をつづけたいか？仕事の事業で勤務地が現在と変更になった場合、指導を継続する意向があるか？
※23名回答

| | |
|-------------|----|
| ① 続けたい | 14 |
| ② 続けたくない | 1 |
| ③ どちらともいえない | 8 |

●参加者の声

指導者

- ・心身ともに生徒たちが成長している事を感じとることができ、クラブ活動を通じて成長する姿を見る事が出来る。
- ・部活動を指導したい思いで教員になった為、クラブ活動に協力をしていきたい。

指導者

- ・自分自身の経験を生徒たちに伝えていきたいと考えており地域貢献の一環として取り組んでいきたい。
- ・部活動の地域移行で、生徒・保護者の負担を少しでも減らしていけるようにしていきたい。

指導者

- ・生徒個人の素晴らしさを引き出し、お互いに切磋琢磨できる環境がつかれるように努力していきたい。
- ・生徒たちに充実した指導を受けてもらえるように、自分自身の指導のスキルレベルのアップにも取り組んでいきたい。

指導者

- ・保護者あつての活動になる為、保護者の理解を得るための行動・言動を心がけていく。
- ・部活動とは違い、保護者とも距離感も変わってくる点だと思つたため、関係性を大事にしていきたい。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（指導者）

Q4 顧問の方は地域移行が始まりご自身の働き方はどのように変化しましたか ※3名回答

- ・完全週休2日となり家庭の時間を確保できるようになった。
- ・まだ現時点では大きな変化はないが残業は減ったと思う。
- ・大会に関わる作業手間が大きいのでその部分がなくなると大きく変わる気がする。

Q5 平日の指導者（顧問）と休日の指導者（指導員）が違う場合の良い点、課題などを教えてください。

①良い点

- ・教員の休日が確保できる。
- ・専門的な指導を受けれる。
- ・平日も専門的な指導を受けれるのであれば生徒にとっては非常によい。
- ・子ども達が色々な指導者に教わる事が出来る。
- ・指導の方向性が一致しやすく指導しやすい。
- ・指導する分野を指導員で分ける事ができ生徒によりきめ細かく指導が出来る。
- ・生徒へたくさん目の入るのでトラブルや悩み事に気づきやすい。

②課題、今後の期待など

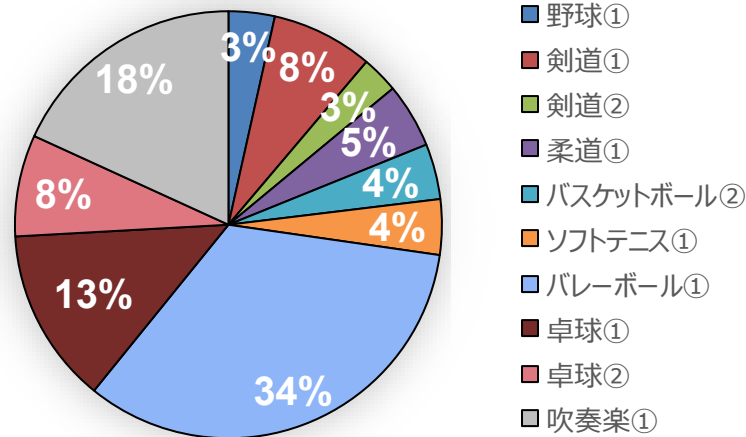
- ・平日と休日の指導者が異なる場合があるため、子ども達の混乱が大きい。
- ・指導者の意思疎通をしっかりとなくてはいけない。
- ・平日教えている顧問が大会にいない点。
- ・平日の指導者と休日の「指導者の指導の差をどのように埋めるか。
- ・平日、指導が出来ない顧問がいる限り、平日休日の差を調整するのがむずかしい。
- ・指導者の物差しが一緒ならば問題は起きない。
- ・顧問と指導員のコミュニケーションを密にとる必要がある。
- ・指導の統一性、生徒の心の教育。
- ・大会に帯同しない顧問のモチベーション維持については気になる。

2.実証内容と成果②

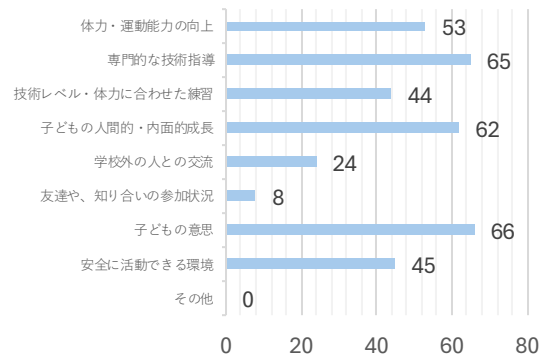
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（保護者）

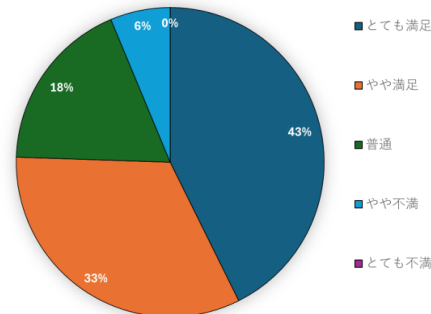
Q.所属しているクラブを教えてください。



Q.お子様が地域クラブに参加するうえで重視していることは何ですか。



Q.地域クラブの活動に満足していますか？



●参加者の声

保護者

- ・心身ともに成長してくれることを期待。
- ・部活動と同じようなとらえ方なので、部活に求めることと、地域クラブに求めることは同じになってくると思う。

保護者

- ・同じ世代の子供たちと活動することができ充実している。
- ・子どもが毎週末を楽しみに過ごしている。
- ・専門的な指導を受けることができ満足。
- ・部活とはまた違った指導があり子供の成長に期待ができる。

保護者

- ・部活動と大きく変化はないが、変化がこないことで逆に安心している部分もある。いきなり変わったからと言っても大きく変えられると困ることが増えるが、現在は段階的な取り組みと言うこともあり保護者への負担なども考慮しながら進めてもらっているので任せられ、安心。

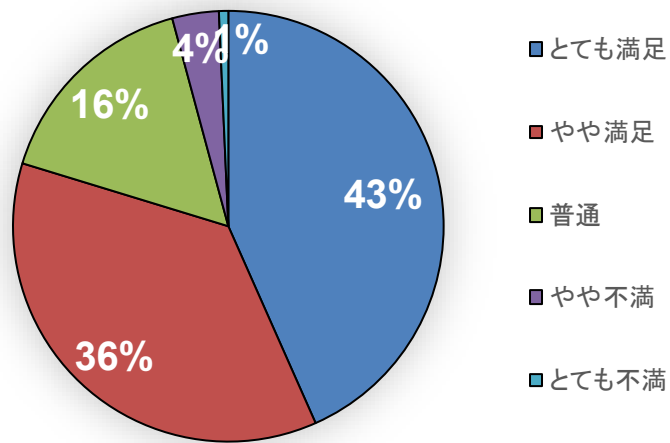
保護者

- ・地域クラブの活動を通じて子どもの内面的な成長を期待しています。人間的にも成長してこれからの人生に役立ててほしいです。

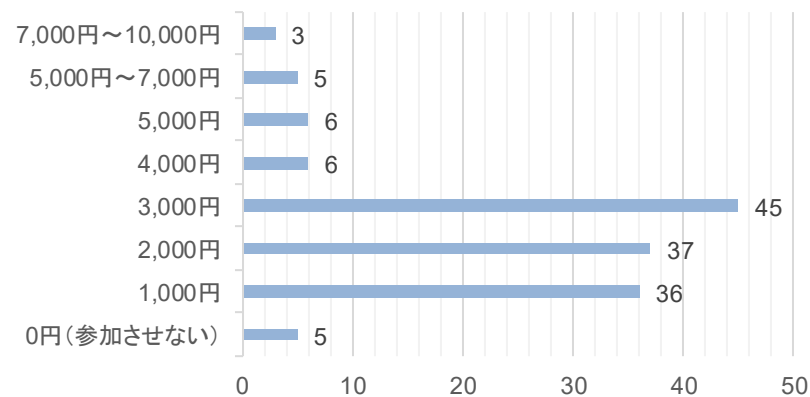
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（保護者）

Q.現在の地域クラブの指導員に満足していますか。



Q.受益者負担が始まった際に、どのくらいの金額であれば参加させたいと思いますか



●参加者の声

参加中学生

- ・週末の活動が楽しみ。
- ・部活では教えてもらえないことを教えてもらえる。
- ・専門的な内容を指導してもらえる。
- ・他の中学校の友達ができて楽しい。

参加中学生

- ・普段の学校の先生とは違う方に指導していただけるので、いつもと違う楽しみ方ができている。
- ・指導もとてもわかりやすく、聞きやすい。

保護者

- ・部活では体験できなかったことを経験できているので5,000円でも少ないと思います。いろんな家庭から参加している為 参加しやすい金額がいいと思いますが、何より専門性があり、運営できる金額でないといけないと思う。
- ・しっかりとした理由とともに提示していただければ本当に参加したい親は参加させると思う。

保護者

- ・兄弟もいて他の習い事にも費用が発生するのでできるだけ持続可能な金額であると助かる。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）

【成田西柔道クラブ 指導の様子】



【成田剣道クラブ 指導の様子】



【成田バレーボールクラブ 指導の様子】



【遠山ベースボールクラブ 指導の様子】



【NJソフトテニスクラブ 指導の様子】



【緑風館 指導の様子】



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）

【公津の杜TTC 指導の様子】



【大栄TTC 指導の様子】



【NARITA CLUB 指導の様子】



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年
協議会設置、
検討会開始

令和5年 9月～

成田市立西中学校柔道部をモデル事業とし検証事業開始

令和6年度モデル事業種目・指導者選定
学校現場との調整
プロポーザル

令和6年 9月～

市内各中学校1部活
10クラブをモデル事業とし検証開始
学校現場との調整

市内児童・生徒説明会
市内保護者説明会
中学校入学説明会
教職員向け説明会

令和7年 新人戦終了後 令和8年 4月～

市内4拠点化
30クラブをモデル事業とし検証開始
学校現場との調整

休日の部活動の停止
平日の部活動の移行の検証

●第1期モデル期間

1部活動の地域移行

●経過

教育委員会主体での協議会の設置から1クラブを立ち上げ検証を行う。

●実施にあたって生じた課題

種目によって指導者確保は行えるが、大会参加に伴う帯同などガイドラインが必要。

●実施内容、工夫した点等

地域指導者が中心に指導を行なっている柔道をモデル事業として取り組んだ結果、クラブ化したことで大きな混乱はみられなかった。また、大会参加もクラブとして参加が可能だったため、生徒・保護者ともに満足いく活動となった。

●第2期モデル期間

市内各中学校1部活動を移行

●経過

11月までにすべてのクラブを開設することができ、9クラブが活動を開始。

●実施にあたって生じた課題

小・中体連の大会規定が地域クラブの参加を認められないものがほとんどであり、小・中体連の大会参加ができなかった。

●実施内容、工夫した点等

大きな混乱を避けるため、指導者は成田市在住の教職員で兼職兼業希望者中心に選定を行った。
生徒・保護者・地域住民に事業の内容を周知するため説明会をこまめに行った。

●第3期モデル期間

市内4拠点化 30部活を移行

●経過

校長会を中心に市内を4拠点化するにあたり、協議を重ねている。

●実施にあたって生じた課題

4拠点化することでの移手段。
小・中体連の大会参加基準。

●実施内容、工夫した点等

市内94部活動の中で人数が少なく、学校単独で大会に参加できない部活動を小中体連の大会に参加が可能なように、組み合わせ1クラブ化する予定。
趣味嗜好型のクラブの立ち上げにも注力していく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

